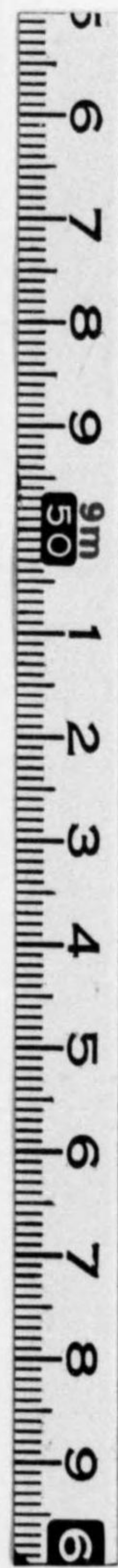


64-244

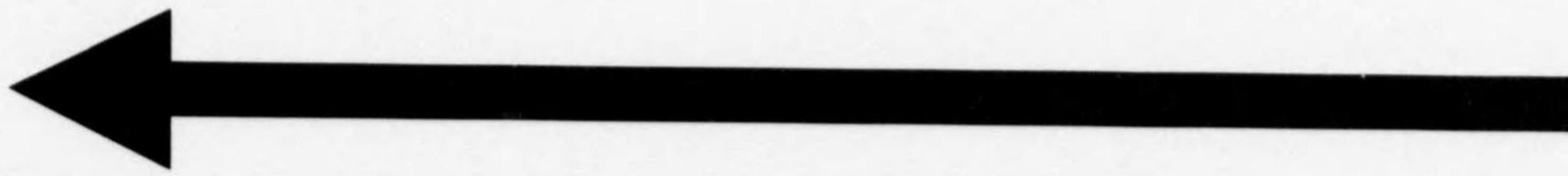


1200501278100

64  
4



始





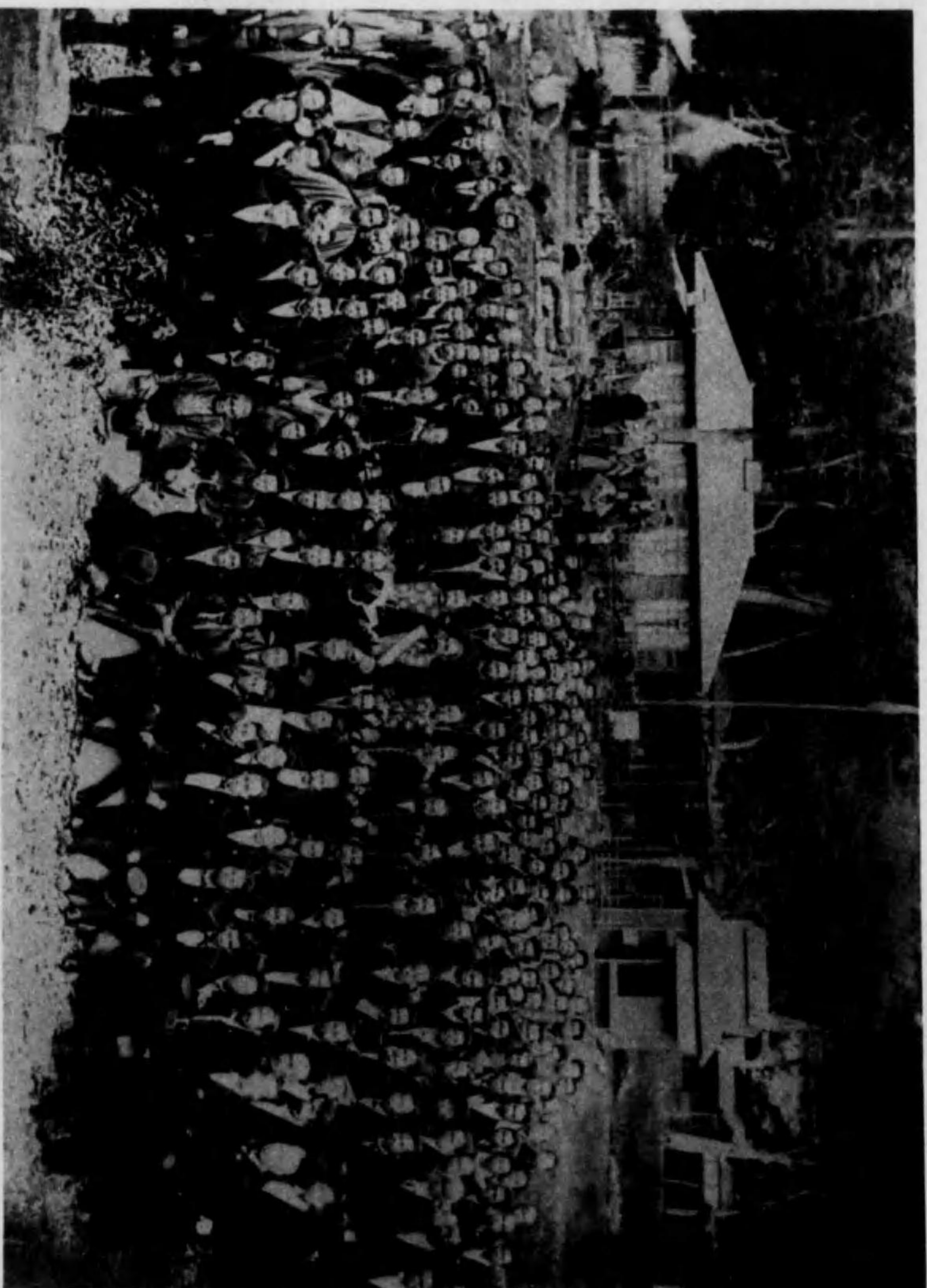
久保利通文書



忠重君

回南史  
籍歸唐

中央に大禮服を着け大綬章を佩用せるは、總裁内務卿大久保利通なり之を中心とし  
て左に大禮服を着けて相並べるは、大藏大輔兼勸農局長松方正義、次は勸商局長河  
瀬秀治、次は工部大書記官渡邊漢兵衛、次は宇都宮三郎、次は博覽會事務官山高信雄、  
又利通の右に大禮服を着けたるは審査官長内務少輔前島密、次は東京府知事楠本正



隆、次は審査部長大島圭介、次は事務官兼審査部長田中芳男、次は事務官鈴木利亨  
次は審査官武田昌次、次は多田元吉其右端に直立せるは植物學大家伊藤圭介、其他  
名士頗る多し之を略す。

(影撮日の式與授賞褒) 員職保關會覽博業勸國內回一第年十治明

64-244

245

大久保利通文書第八目次

卷四十

- 一四〇七 伊藤博文への書翰 明治十年三月朔日
- 【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月朔日
- 【参考】其二 三條公より大久保への書翰 明治十年三月二日
- 【参考】其三 前島密より大久保への書翰 明治十年二月廿一日
- 一四〇八 伊藤博文への書翰 明治十年三月四日
- 【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月四日
- 【参考】其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月六日
- 一四〇九 伊藤博文への書翰 明治十年三月五日
- 【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月五日

目次

一四一〇 岩倉公への書翰 明治十年三月七日 一一

【参考】 岩倉公より大久保への書翰 明治十年三月十三日 一五

一四一一 伊藤博文への書翰 明治十年三月八日 一八

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月八日 一九

一四一二 伊藤博文への書翰 明治十年三月八日 二〇

一四一三 伊藤博文への書翰 明治十年三月九日 二〇

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月九日 二一

一四一四 伊地知正治への書翰 明治十年三月十日 二二

【参考】 伊地知正治より大久保への書翰 明治十年三月十日 二六

一四一五 伊藤博文への書翰 明治十年三月十日 二七

一四一六 伊藤博文への書翰 明治十年三月十一日 二八

一四一七 伊藤博文への書翰 明治十年三月十二日 二九

【参考】 其一 松田道之より大久保への書翰 明治十年三月十四日 三〇

【参考】 其二 今井鐵太郎より松田道之への書翰 明治十年二月廿四日 三一

【参考】 其三 今井鐵太郎より北垣國道への書翰 明治十年三月五日 三三

一四一八 伊藤博文への書翰 明治十年三月十三日 三六

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十三日 三八

一四一九 伊藤博文への書翰 明治十年三月十四日 三八

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十四日 四〇

一四二〇 伊藤博文への書翰 明治十年三月十八日 四〇

【参考】 山田顯義より大久保への書翰 明治十年三月十八日 四一

一四二一 山田顯義への書翰 明治十年三月十八日 四二

一四二二 伊藤博文への書翰 明治十年三月十九日 四三

【参考】 其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十九日 四四

【参考】 其二 西郷從道より大久保への書翰 明治十年三月十五日 四五

【参考】 其三 川路利良より大久保への書翰 明治十年三月十九日 四五

一四二三 伊藤博文への書翰 明治十年三月十九日 四六

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十九日 四七

一四二四 伊藤博文への書翰 明治十年三月十九日 四八

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十八日 四九

【参考】其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十九日 四九

【参考】其三 大山綱良より有栖川宮へ呈したる書 明治十年三月二日五〇

【参考】其四 柳原前光より岩倉公への書翰 明治十年三月十八日 五一

一四二五 岩倉公への書翰 明治十年三月廿日 六一

【参考】其一 川路利良より大久保への書翰 明治十年三月十六日 六四

【参考】其二 岩倉公より三條木戸への書翰 明治十年三月十一日 六五

一四二六 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿日 七〇

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿日 七〇

【参考】其二 岩倉公より大久保伊藤への書翰 明治十年三月十八日 七一

一四二七 前島密・松田道之への書翰 明治十年三月廿日 七三

【参考】 前島密より大久保への書翰 明治十年三月十日 七七

一四二八 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿一日 八〇

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿一日 八一

【参考】其二 西郷隆盛より大山綱良への書翰 明治十年三月十二日 八二

一四二九 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿三日 八五

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿一日 八六

【参考】其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿三日 八六

一四三〇 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿五日 八七

一四三一 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿六日 八七

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿六日 八八

一四三二 前島密への書翰 明治十年三月廿六日 八九

【参考】 前島密より大久保への書翰 明治十年四月三日 九二

一四三三 松方正義への書翰 明治十年三月廿六日 九四

一四三四 松方正義への別啓書翰 明治十年三月廿六日 九七

一四三五 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿七日 九七

一四三六 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿八日 九九

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿八日 九九

【参考】其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿八日 一〇〇

【参考】其三 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿九日 一〇〇

一四三七 大隈重信への書翰 明治十年四月朔日 一〇一

【参考】 岩倉公覺書 明治十年四月八日 一〇三

一四三八 伊藤博文への書翰 明治十年四月二日 一〇六

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月二日 一〇八

一四三九 伊藤博文への書翰 明治十年四月三日 一〇九

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月四日 一一〇

【参考】其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月四日 一一一

【参考】其三 岩倉公より大久保・伊藤への書翰 明治十年四月四日 一一二

一四四〇 伊藤博文への書翰 明治十年四月四日 一一三

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月四日 一一三

一四四一 伊藤博文への書翰 明治十年四月五日 一一四

一四四二 伊藤博文への書翰 明治十年四月五日 一一六

一四四三 伊藤博文への書翰 明治十年四月カ 一一七

一四四四 伊藤博文への書翰 明治十年四月七日 一一九

一四四五 林友幸への書翰 明治十年四月七日 一二〇

一四四六 伊藤博文への書翰 明治十年四月八日 一二二

一四四七 伊藤博文への書翰 明治十年四月九日 一二二

【参考】 池田徳潤より大久保への書翰 明治十年四月廿一日 一二三

一四四八 大隈重信への書翰 明治十年四月十日 一二四



【参考】石井省一郎より大久保への書翰 明治十年四月二日 一二六

一四四九 伊藤博文への書翰 明治十年四月十日 一二九

【参考】西郷従道より大久保への書翰 明治十年四月四日 一三一

一四五〇 川村正平への書翰 明治十年四月十日 一三二

一四五一 伊藤博文への書翰 明治十年四月十一日 一三三

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十一日 一三四

一四五二 伊藤博文への書翰 明治十年四月十二日 一三五

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十二日 一三五

一四五三 伊藤博文への書翰 明治十年四月十二日 一三六

一四五四 伊藤博文への書翰 明治十年四月十三日 一三六

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十三日 一三九

【参考】其二 黒田清隆より三條・大久保への書翰 明治十年四月十三日 一四〇

【参考】其三 川村純義より大久保への書翰 明治十年四月十四日 一四一

一四五五 伊藤博文への書翰 明治十年四月十五日 一四五

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十五日 一四六

【参考】其二 黒田清隆より三條・大久保への書翰 明治十年四月十三日 一四七

【参考】其三 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十五日 一四八

一四五六 岩倉公への書翰 明治十年四月十六日 一四八

【参考】其一 岩倉公より大久保への書翰 明治十年四月十一日 一四九

【参考】其二 島津久光・忠義より三條公に上れる書 明治十年三月 一五九

【参考】其三 三條公より珍彦等への諭書 明治十年四月廿三日 一六四

【参考】其四 岩倉公より三條公への書翰 明治十年四月廿三日 一六四

一四五七 伊藤博文への書翰 明治十年四月十八日 一六八

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十八日 一六九

一四五八 伊藤博文への書翰 明治十年四月十九日 一七〇

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十九日 一七一

一四五九 伊藤博文への書翰 明治十年四月廿二日 一七二  
 一四六〇 内田政風への書翰 明治十年四月廿七日 一七三  
 一四六一 内田政風東郷重持への書翰 明治十年四月廿八日 一七四

卷四十一

一四六二 西郷従道への書翰 明治十年五月三日 一七七  
 一四六三 伊藤博文への書翰 明治十年五月九日 一七八  
 【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年五月九日 一七九  
 【参考】其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年五月九日 一七九  
 一四六四 伊藤博文への書翰 明治十年五月九日 一八〇  
 【参考】 西郷従道より大久保への書翰 明治十年五月九日 一八一  
 一四六五 伊藤博文への書翰 明治十年五月十日 一八一  
 【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年五月十日 一八二  
 一四六六 川村正平への書翰 明治十年五月十一日 一八二

一四六七 伊藤博文への書翰 明治十年五月十三日 一八三  
 一四六八 中村弘毅への書翰 明治十年五月十四日 一八四  
 【参考】 立志社員の活動政府顛覆の隠謀 一八五  
 一四六九 石原近義への書翰 明治十年五月十九日 一八六  
 【参考】 石原近義より大久保への書翰 明治十年五月廿九日 一九〇  
 一四七〇 伊藤博文への書翰 明治十年五月廿一日 一九三  
 【参考】 三條公より大久保への書翰 明治十年五月廿一日 一九四  
 一四七一 前島密への書翰 明治十年五月廿三日 一九五  
 【参考】其一 前島密より大久保への書翰 明治十年五月廿日 一九七  
 【参考】其二 前島密より大久保への書翰 明治十年五月廿二日 二〇〇  
 【参考】其三 前島密より大久保への書翰 明治十年五月廿六日 二〇一  
 【参考】其四 松方正義より大久保への書翰 明治十年五月廿六日 二〇三  
 【参考】其五 岩倉公より三條公への書翰 明治十年五月廿九日 二〇六

一四七二 前島密への書翰 明治十年五月廿八日 二〇九

【参考】 岩村通俊より大久保への書翰 明治十年五月廿日 二一二

一四七三 前島密へ協議事項の覺書 明治十年五月 二一二

一四七四 伊藤博文への書翰 明治十年五月卅一日 二一三

【参考】 其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年五月卅一日 二一四

【参考】 其二 三條公より大久保への書翰 明治十年五月卅一日 二一四

一四七五 伊藤博文への書翰 明治十年六月朔日 二一五

【参考】 其一 大山巖より大久保への書翰 明治十年五月廿六日 二一六

【参考】 其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月朔日 二一九

【参考】 其三 西郷従道より大久保への書翰 明治十年六月四日 二一九

一四七六 伊藤博文への書翰 明治十年六月朔日 二二一

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月朔日 二二一

一四七七 伊藤博文への書翰 明治十年六月二日 二二二

【参考】 渡邊昇より大久保伊藤への書翰 明治十年五月卅一日 二二三

一四七八 伊藤博文への書翰 明治十年六月二日 二二六

一四七九 岩村通俊への書翰 明治十年六月三日 二二七

【参考】 其一 岩村通俊より大久保への書翰 明治十年六月十一日 二三〇

【参考】 其二 岩村通俊より大久保への書翰 明治十年五月三日 二三三

【参考】 其三 岩村通俊遺稿「貫堂存稿」 二三四

一四八〇 伊藤博文への書翰 明治十年六月四日 二三八

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月四日 二三八

一四八一 伊藤博文への書翰 明治十年六月七日 二三九

一四八二 品川彌二郎への書翰 明治十一年六月九日 二四〇

【参考】 其一 品川彌二郎より大久保への書翰 明治十年五月十二日 二四三

【参考】 其二 前島密より大久保への書翰 明治十年六月四日 二四五

一四八三 伊藤博文への書翰 明治十年六月九日 二四七

一四八四 書記官への書翰 明治十年六月九日 二四七

【参考】 渡邊昇より大久保への書翰 明治十年六月五日 二四八

一四八五 三島通庸への書翰 明治十年六月十日 二四九

【参考】 三島通庸より大久保への書翰 明治十年五月廿七日 二五一

一四八六 伊藤博文への書翰 明治十年六月十日 二五三

一四八七 伊藤博文への書翰 明治十年六月十日 二五四

【参考】 其一 西郷従道より大久保伊藤への書翰 明治十年六月九日 二五四

【参考】 其二 西郷従道より井田讓への書翰 明治十年五月廿三日 二五五

【参考】 其三 西郷従道より黒田清隆への書翰 明治十年五月廿三日 二五五

一四八八 西郷従道への書翰 明治十年六月十一日 二五七

【参考】 其一 西郷従道より大久保伊藤への書翰 明治十年六月三日 二六二

【参考】 其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月十三日 二六四

【参考】 其三 三條公より大久保への書翰 明治十年六月十一日 二六五

【参考】 其四 河田景興より大久保への書翰 明治十年六月十二日 二六六

【参考】 其五 岩倉公より池田慶徳への書翰 明治十年六月廿六日 二六六

一四八九 伊藤博文への書翰 明治十年六月十一日 二六八

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月十一日 二六八

一四九〇 伊藤博文への書翰 明治十年六月十二日 二六九

一四九一 伊藤博文への書翰 明治十年六月十三日 二六九

【参考】 其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月十三日 二七〇

【参考】 其二 大隈前島より大久保への電報 明治十年六月十三日 二七一

【参考】 其三 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月十六日 二七一

一四九二 西郷従道への書翰 明治十年六月十六日 二七二

一四九三 伊藤博文への書翰 明治十年六月十七日 二七三

一四九四 榎村正直への書翰 明治十年六月十七日 二七四

一四九五 榎村正直への書翰 明治十年六月十七日 二七五

一四九六 横村正直への書翰 明治十年六月十七日 二七五

一四九七 横村正直への書翰 明治十年六月十八日 二七六

一四九八 横村正直への書翰 明治十年六月十八日 二七七

一四九九 伊藤博文への書翰 明治十年六月十八日 二七七

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月十八日 二七八

一五〇〇 伊藤博文への書翰 明治十年六月十八日 二七八

【参考】 西郷従道より大久保伊藤への書翰 明治十年六月十九日 二七九

一五〇一 伊藤博文への書翰 明治十年六月十八日 二八〇

一五〇二 伊藤博文への書翰 明治十年六月廿一日 二八一

一五〇三 岸良兼養への書翰 明治十年六月廿二日 二八一

【参考】 岸良兼養より大久保への書翰 明治十年六月十二日 二八四

一五〇四 三條公への書翰 明治十年六月廿五日 二八六

一五〇五 三條公伊藤博文への書翰 明治十年六月廿五日 二八六

一五〇六 松田道之への書翰 明治十年六月廿五日 二八七

一五〇七 伊藤博文への書翰 明治十年六月廿五日 二八八

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月廿五日 二八九

一五〇八 三條公への書翰 明治十年六月廿七日 二九〇

一五〇九 伊藤博文への書翰 明治十年六月廿七日 二九一

【参考】 其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月廿七日 二九三

【参考】 其二 川路利良より大久保への書翰 明治十年五月廿八日 二九三

【参考】 其三 安藤則命より大久保への書翰 明治十年六月五日 二九六

【参考】 其四 安藤則命より松方正義への書翰 明治十年五月廿五日 二九七

【参考】 其五 西郷従道より山縣有朋への電信 明治十年六月廿四日 三〇一

【参考】 其六 山縣有朋より西郷従道への電信 明治十年六月廿六日 三〇二

一五一〇 西郷従道への書翰 明治十年六月廿七日 三〇三

一五一一 伊藤博文への書翰 明治十年六月卅日 三〇六

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年六月卅日 三〇七

一五一一 西郷従道への書翰 明治十年六月卅日 三〇七

卷四十二

一五一三 伊藤博文への書翰 明治十年七月四日 三一

【参考】 西郷従道より大久保への書翰 明治十年六月八日 三一

一五一四 松田道之への書翰 明治十年七月五日 三一

一五一五 西郷従道への書翰 明治十年七月八日 三一

【参考】 其一 川路利良より大久保への書翰 明治十年七月七日 三一

【参考】 其二 前島密より大久保への書翰 明治十年七月十一日 三二〇

一五一六 西郷従道への書翰 明治十年七月八日 三二三

一五一七 伊藤博文への書翰 明治十年七月十五日 三二五

【参考】 其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年七月十五日 三二六

【参考】 其二 岩倉公より三條公への書翰 明治十年六月十九日 三二七

【参考】 其三 三條公より大久保への書翰 明治十年七月五日 三二九

【参考】 其四 黒田清隆より大久保への書翰 明治十年七月七日 三三一

【参考】 其五 三條公より大久保への書翰 明治十年七月十七日 三三二

一五一八 伊藤博文への書翰 明治十年七月十六日 三三二

一五一九 伊藤博文への書翰 明治十年七月十八日 三三三

【参考】 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年七月十八日 三三三

一五二〇 岩倉公への書翰 明治十年七月廿日 三三五

一五二一 前島密への書翰 明治十年七月廿日 三三七

一五二二 西郷従道への書翰 明治十年七月廿一日 三四〇

一五二三 伊藤博文への書翰 明治十年七月廿四日 三四一

一五二四 金井之恭への書翰 明治十年七月廿四日 三四二

一五二五 岩村通俊への書翰 明治十年七月廿五日 三四三

【参考】	岩村通俊より大久保への書翰	明治十年七月十五日	三四六
一五二六	税所篤への書翰	明治十年七月廿八日	三四七
一五二七	前島密への書翰	明治十年七月	三四九
一五二八	三條公への届書	明治十年八月二日	三四九
一五二九	伊藤博文への書翰	明治十年八月三日	三五〇
一五三〇	伊藤博文への書翰	明治十年八月七日	三五〇
一五三一	河野敏鎌・岸良兼養への書翰	明治十年八月八日	三五二
【参考】	岸良兼養・河野敏鎌より大久保・伊藤への答書	明治十年八月十七日	三五五
一五三二	小池國武への書翰	明治十年八月九日	三五九
一五三三	岩村通俊への書翰	明治十年八月九日	三六二
一五三四	松田道之への書翰	明治十年八月十二日	三六四
一五三五	松田道之への書翰	明治十年八月十五日	三六五
一五三六	伊集院某への書翰	明治十年八月十七日	三六五

一五三七	内國勸業博覽會開場式臨幸に付ての達	明治十年八月十八日	三六六
一五三八	三條岩倉兩公への書翰	明治十年八月十九日	三六六
一五三九	内國勸業博覽會開會式祝詞	明治十年八月廿一日	三六八

【参考】其一 勅語

【参考】其二 内國勸業博覽會開場式

一五四〇	内務省布達	明治十年八月廿一日	三七〇
一五四一	伊藤博文への書翰	明治十年八月廿一日	三七七
一五四二	三條岩倉兩公への書翰	明治十年八月廿二日	三七七
一五四三	三條岩倉兩公への書翰	明治十年八月廿三日	三七八
一五四四	伊藤博文・黒田清隆への書翰	明治十年八月廿四日	三八〇
一五四五	前島密への書翰	明治十年八月	三八二
一五四六	協議事項の覺書	明治十年八月	三八二
一五四七	松田道之への書翰	明治十年九月三日	三八四

一五四八	西郷従道への書翰	明治十年九月四日	三八五
一五四九	岩倉公への書翰	明治十年九月五日	三八九
一五五〇	松田道之への書翰	明治十年九月五日	三九〇
一五五一	川路利良への書翰	明治十年九月九日	三九〇
一五五二	川路利良への書翰	明治十年九月十五日	三九二
一五五三	松田道之への書翰	明治十年九月十五日	三九三
一五五四	三條岩倉兩公への書翰	明治十年九月廿二日	三九四
一五五五	伊藤博文・黒田清隆への書翰	明治十年九月廿四日	三九五
	【参考】其一 重野安釋述「西郷南洲逸話」		三九七
	【参考】其二 公爵伊藤博文談話「西南の役に於ける大久保公」		三九九
	【参考】其三 侯爵西郷従道後室清子城山陷落追懐談		四〇二
一五五六	前田正名への書翰	明治十年九月廿七日	四〇五

卷四十三

一五五七	三條岩倉兩公への書翰	明治十年十月朔日	四〇七
一五五八	前田正名への書翰	明治十年十月朔日	四〇七
	【参考】前田正名談話「三田育種場の創設と大久保公」		四〇八
一五五九	林友幸への書翰	明治十年十月四日	四一一
一五六〇	岩倉公への書翰	明治十年十月七日	四一二
一五六一	松田道之への書翰	明治十年十月八日	四一三
一五六二	伊藤博文への書翰	明治十年十月九日	四一四
一五六三	前島密への書翰	明治十年十月九日	四一五
一五六四	前田正名への命令書	明治十年十月	四一九
一五六五	岩村通俊への書翰	明治十年十月十日	四二四
一五六六	松田道之への書翰	明治十年十月十日	四二七
	【参考】松田道之より大久保への書翰	明治十年十月十日	四二八
一五六七	松田道之への書翰	明治十年十月十日	四二九



一五六八 前島密への書翰 明治十年十月十一日 四三〇

一五六九 川路利良への書翰 明治十年十月十一日 四三三

一五七〇 前島密への書翰 明治十年十月十四日 四三四

一五七一 三條岩倉兩公への書翰 明治十年十月十七日 四三五

一五七二 伊藤博文への書翰 明治十年十月十七日 四三六

一五七三 伊藤博文への書翰 明治十年十月十八日 四三七

一五七四 岩倉公への書翰 明治十年十月十九日 四三七

一五七五 林友幸への書翰 明治十年十月十九日 四四一

一五七六 岩倉公への書翰 明治十年十月廿三日 四四二

一五七七 松方正義への書翰 明治十年十月廿三日 四四三

【参考】其一 松方正義より大久保への書翰 明治十年十月廿三日 四四五

【参考】其二 佐々木長淳談話「新町屑絲紡績所の創設」 四四六

一五七八 三條公への届書 明治十年十月廿四日 四四八

一五七九 伊藤博文への書翰 明治十年十月廿九日 四四九

一五八〇 大隈重信への書翰 明治十年十月廿九日 四五〇

一五八一 伊藤博文への書翰 明治十年十月卅一日 四五〇

一五八二 伊藤博文への書翰 明治十年十一月二日 四五一

一五八三 伊藤博文への書翰 明治十年十一月二日 四五三

一五八四 川路利良への書翰 明治十年十一月四日 四五四

一五八五 伊藤博文への書翰 明治十年十一月十六日 四五五

一五八六 伊藤博文への書翰 明治十年十一月十六日 四五六

一五八七 松田道之への書翰 明治十年十一月十七日 四五六

一五八八 金井恭之への書翰 明治十年十一月十八日 四五七

一五八九 岩倉公への書翰 明治十年十一月十九日 四五八

【参考】岩倉公より大久保への書翰 明治十年十一月十九日 四五八

一五九〇 前島密への書翰 明治十年十一月十九日 四五九

【参考】内國勸業博覽會報告書

一五九一 内務省布達 明治十年十一月十九日 四六〇

一五九二 松田道之への書翰 明治十年十一月廿日 四六二

一五九三 吉井友實への書翰 明治十年十一月廿日 四六三

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年八月十六日 四六五

【参考】其二 男爵元田永孚述「還暦の記」 四六六

一五九四 松田道之への書翰 明治十年十一月廿三日 四六八

一五九五 岩倉公への書翰 明治十年十一月卅日 四七〇

一五九六 内國勸業博覽會閉場式奉答文 明治十年十一月卅日 四七一

【参考】第一回内國勸業博覽會閉場式に賜はりし勅語 四七二

一五九七 小笠原島開拓の碑 明治十年十一月 四七二

一五九八 松田道之への書翰 明治十年十二月三日 四七四

一五九九 松田道之への書翰 明治十年十二月四日 四七六

一六〇〇 伊藤博文への書翰 明治十年十二月五日 四七七

一六〇一 岩倉公への書翰 明治十年十二月七日 四七八

一六〇二 伊藤博文への書翰 明治十年十二月八日 四七九

一六〇三 松方正義への書翰 明治十年十二月九日 四七九

【参考】松方正義より大久保への書翰 明治十年十二月九日 四八一

一六〇四 伊藤博文への書翰 明治十年十二月十一日 四八二

一六〇五 伊藤博文への書翰 明治十年十二月十二日 四八三

一六〇六 岩倉公への書翰 明治十年十二月十八日 四八三

一六〇七 三條公への伺書 明治十年十二月廿一日 四八四

一六〇八 岩村通俊への書翰 明治十年十二月廿四日 四八六

【参考】仁禮景範等より黒田清隆への書翰 (明治十五年頃) 四九一

一六〇九 伊藤博文への書翰 明治十年十二月廿八日 四九二

一六一〇 伊藤博文への書翰 明治十年十二月廿八日 四九三

一六一一	得能良介への書翰	明治十年十二月廿八日	四九四
【参考】其一	中原尙雄口供書	明治十年十二月廿四日	四九六
【参考】其二	谷口登太口供書	明治十年十二月廿四日	五〇五
【参考】其三	中原尙雄等判決書	明治十年十二月廿五日	五〇八
【参考】其四	中原尙雄口供書	明治十年二月五日	五一一
【参考】其五	中原尙雄拷問始末書	明治十年四月四日	五一四
一六一二	岸良兼養への書翰	明治十年十二月廿八日	五二〇

### 大久保利通文書卷四十



伊藤博文への書翰 明治十年三月朔日

(伊藤公爵家藏)

【按】宮城縣大書記官并ニ福島縣令人撰ニ付キテ協議シタルモ

宮城大書記官欠員ニ付此際別ニ差支有之趣ニ急ニ撰舉之義縣令より上申之由ニテ度々廻來候付別紙成川尙義ハ新川縣參事ニテ事務も熟達人柄も儘成者ニ付同縣大書記官ニ被任度且福島縣之義縣令欠員にて是以度々催促申來猶勘考之上与存打過居候處此際之義ニ候得ハ外ニ見込之人柄有之候ハ、早々被命度差當リ無之候得ハ亦まじ以ニ他方御居へ有之より當分山吉大書記官を昇級被仰付候ハ以るゝ与申來候種々批評も有之候得共過日來出京致居前島松方面會爲致同人見込篤与爲承候處十分目的も相

立居候付御居置之方可然与申事ニ候即今外ニ人物有之候得ハ宜舖候得共五十歩百歩之論ニ候得ハ先同人に相任セ方可然与愚考候付別紙之通相伺度若御異存有之候得ハ被示聞度於御同意ハ御捺印可被下候早速西京に仕出電報ヲ以被命候様致度此旨艸々如此候也

三月一日

利通

伊藤殿

【解説】宮城縣權令宮城時亮ヨリ成川尙義ヲ大書記官ニ推薦シタルモノナルカ新川縣ハ明治九年四月十八日石川縣ニ合併セラレ成川ハ廢縣當時參事タリシナリ又福島縣令ハ安場保和カ八年十二月廿七日愛知縣令ニ轉任セシ後缺員ト爲リ居リシヲ以テ大書記官山吉盛典ヲ昇進セシメントセシモノニテ伊藤ハ直ニ同意セシカハ翌二日兩人共ニ任命セラレタリ

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月朔日 (大久保家藏)

大久保殿

博文拜

福島縣權令并ニ宮城縣大書記官欠員撰擧之儀御申聞何も異存無御座候ニ付檢印之上返上仕候也

三月一日

過刻ハ失敬仕候今日ハ風邪療養之爲引籠居申度尤爲差事ニ無之候ニ付御用有之節ハ何時よるも參會可仕無御遠慮可被仰聞様奉願候以上

【参考】其二 三條公より大久保への書翰 明治十年三月二日 (大久保家藏)

倍御清康大賀候縷々楮表何も承り候早速遂奏聞即辭令相渡申候其地出張所も彼是都合宜趣至極之義と存候如來示戰地之景況も墓々敷無之如何と懸念仕候得共輕進敗衄を取候るゑ不相成事ニ付軍機を不誤様祈望致候事ニ候始終高瀬邊之景況而已ニテ城下賊營中之模様更ニ相通し不申如何と存候事ニ候猶相分り候ハ、報知有之度候先々右回

答旁如此候也

三月二日

大久保殿

實美

二伸木戸伊藤へも宜傳聲有之度候

【参考】其三前島密より大久保への書翰明治十年二月廿一日

(大久保家藏)

西南事件御繁忙之際恐入候得共亦東北地方官之儀も御餘暇ヲ以御考被下度奉存候即今何等之動靜も平常ニ不異先ツ平安之景況ニ有之候へ共自ラ西隅之事ニ付東邊之人情も惱々之反影有之るゝ如此之時ニ方リテハ一ニ地方長官之鎮壓力ト治下之人民其長官ニ信任依頼スルトヲ肝要ニ可致然ルニ福島縣山吉事ニ此度官制御改正ニ就而も猶依然舊等ニ居リ他ニ長官ヲモ不置ニ付本人も何分歎不安之意も可有之歎又治下之人民も隨而信任依頼之心少カルヘキカ願クハ此際他ニ可然人も有之候ハ、決然新任被仰付若シ山吉ヲ以テ其任ニ相當ト

御賢斷被遊候ハ、同人ヲ權令ニ被任候ハ如何可有之哉松方ニハ同人ヲ以テ長官ト被成候ても敢而都合有之間敷与之見込ニ有之小官亦同按ニ有之候何卒早々御斷裁奉仰候且又宮城縣ニ次官于今無之自ラ即今次官も入用之時ト被存候ニ付何卒合テ之ヲモ御考被下度權令之事ニ就テモ已ニ御考被爲在候得共今日騷擾人氣不安之際地方長官之任免交換ハ餘リ不好様ニ被存候若し新ニ人ヲ御撰ヒトノ事ニ候ハ、從前其地方之狀實を辨知シ居リ又其人民も是ヲ知リ居ナラハ其御撰ニ被充此節柄ニテモ敢テ新官之入縣与ハ同様之看有之間敷故ニ舊水澤縣増田ヲ御探任被遊候ハ如何可有之哉是等元より御考按ニ供ル迄ニ有之候書記官ニ成川ヲ最モ宜シトスル説多分ニ有之候是亦乍序申上候

二月廿一日

前島 密拜

本省ハ無事東京ニ平安御放念可被下候

一四〇八 伊藤博文への書翰 明治十年三月四日

(伊藤公爵家藏)

【按】岩倉公ヨリ傳言ノコトニ付キ答書シタルモノナリ

陸軍新製之畫圖御廻送被下収手仕候如高諭今日岩倉具定殿入來右府公御傳言縷々承候凡る既往ニ屬シ候事件不少候得共猶出京太政大臣殿木戸顧問御陳述有之候ハ、明日木戸下坂相成候ニ付示談之上御返詞相成候様可致旨申入置候何を明朝拜表御直話可申上先貴答艸々拜白

三月四日

利通

伊藤殿

【解説】陸軍新製之畫圖ハ軍用地圖ヲ云フ是日岩倉具定東京ヨリ大坂ニ着シ利通及ヒ伊藤ヲ訪ヒ西南ノ形勢ト庄内ノ動搖ニ

關スル具視ノ意見ヲ告クルアリ利通ハ更ニ具定ヲシテ三條太政大臣及ヒ木戸顧問ニ陳述セシメ明日木戸ノ下坂スルヲ幸ヒ協議スヘキ旨ヲ答ヘ之レヲ伊藤ニ通シタルナリ

【参考】其一伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月四日

(大久保家藏)

大久保殿

博文

陸軍新製之圖昨日滋野中佐へ相頼置候處過刻差送候ニ付御手許へ差上置申候勿々拜具

三月四日

過刻岩倉具定來訪右大臣殿ヨリ傳言之趣承候處大概已ニ相濟候事ニ御坐候處庄内一條丈クハ出兵云々何とか御返答可有之事と奉存候老臺も必御面晤直ニ御聞取相成候事よて自カラ御高慮も可有之と奉存候いつを拜眉之上可相窺候也

【参考】其二伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月六日

(大久保家藏)

唯今鳥尾より別紙ニ通電報寫差送申候間入貴覽候死傷八百名ハ可驚多數ニ御座候へ共是よて大概賊勢も挫折候ニ相違有之間布又戦闘も激烈ナリシコヲ想像スルニ足リ申候木戸今以着坂不仕候ニ付晚景迄相待下坂無之候へハ明朝ニ第一車よて日下部書記官へ上京御命相成可然奉存候勿々拜具

三月六日

博文

利通殿

親展

一四〇九 伊藤博文への書翰 明治十年三月五日

(伊藤公爵家藏)

【按】別働隊編成出軍ニ關シテ答書シタルモノナリ

敬讀陳去鳥尾氏從神戶歸坂別働隊編成且司令士官云々見込ニ趣等被示聞逐一承知仕候陸軍卿電報ニ趣ニ亦ハ隨分苦戰ニ様子ニ被察申候間別働隊

繰出ニ手順ハ可成速ニ相運候様有之度祈望仕候賊も旦夕ニ迫リ候故必ス死力を可盡乍去進撃ニ勢も無之与申候得ハ最早格別ニ事も有之ましく候士官多數手負ニ亦ハ甚差支可申二三十名差出ニ都合ニ亦最神速からん事を祈候右拜復迄艸々餘明日拜表を期し候拜白

三月五日

利通

伊藤殿

再伸木戸氏書面一覽返却仕候

【解説】陸軍中將鳥尾小彌太ハ別働隊編成出軍ノ議ヲ參軍山縣有朋ニ交渉シ之レカ返電ト少將大山巖又ハ山田顯義ヲ司令官ニ任セントスル意向ノ旨ヲ伊藤ニ告ク依リテ伊藤ハ山縣ノ返電ヲ利通ニ送ルト共ニ鳥尾ノ意見ヲ報シタルナリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月五日 (大久保家藏)

大久保殿呈拆

博文

再伸別紙ハ木戸ヨリ到來ニ付一應入貴覽申候御覽後御返却是祈  
鳥尾唯今從神戸來着同人ヨリ將來可繰出別働隊之儀ニ付山縣へ掛合  
候電報之返詞左之通

第五號別働隊第二旅團ヲ編成シ賊ノ背後ヲ衝クハ上策ニ付早々編  
成ノ上長崎迄繰出シ相成度最モ上陸場所之儀ハ當地にて決定致ス  
ヘクニ付司令長官ハ博多へ鳥渡上陸スル様御達シアリタシ

三月五日午後二字廿分發 山縣 參軍

鳥尾 中將宛

今一通之電報左之通

第五號昨日キドメ峠ニ進撃殆ント抜ントスル際士官多數ノ手負ニ  
テ頗ル苦戦トナリ止ムヲ得ス伊倉坂迄引退キ防禦スル又田原坂も  
激戦ニテ多ク士官ヲイタメ未タ抜ク不能今ニ休戦セスセメテ士官  
二三十名御繰合セ至急御差向ケアリタシ尤モ即今ノ處彼ヨリ進撃

ノ勢ナシ賊ハ専ラ士官ヲ狙撃スルヲ目的トシテ戦闘スル也ト南ノ

關ヨリ山縣參軍ヨリ申來ル御取計アリタシ 福岡

右電報之趣を以勘考仕候へハ隨分難戦之形勢ニ被察申候鳥尾之考案  
よてハ此後差出候別働隊司令長官ハ成丈ケ大山少將へ任シ度由尤同  
人戦地之都合よて差支候へハ山田を可差出と已ニ山縣ハ懸合置候趣  
未タ其返答ハ不到來

福原和勝も腹部ニ傷ヲ負候由報知有之と申事他ハ何も異事承知不仕  
右鳥尾中將面晤承知之廉々入貴聽置候也

三月五日夜

一四一〇 岩倉公への書翰 明治十年三月七日

(岩倉家文書)

【按】具定公ヲ通シテ傳言セラレシ時務ニ關シテ答申シタルモ

ノナリ



謹啓爾來益御安康被爲涉大慶奉存候陳ハ具定公御上坂御傳言之趣且戰地之事ニ付御目的之御書取拜讀仕候就御高配被爲在候義御尤至極ニ奉想像候就ハ條公木戸ハ回答有之趣ニ候得共御箇條之内二三左ニ愚考陳述仕候

一爲 勅使柳原被差向候事御懸念之趣ニ候得共巡查千三百人兵隊一大隊半護衛軍艦二艘龍驤春日參る都合ニ素よ迂濶ニ上陸ハ無之筈奈良原有村等一應上陸模様探偵之上其事情を詳よして御上陸与申事ニ相成居尤可成久光父子

勅使之船ニ送迎仕候様談置候ニ付上陸おしにて多分辨理可相成若又勅使之旨趣萬々難達景況ある時ハ其まゝ引返し候事ニ御含メニモ相成居候ニ付旁氣遣候義無御坐候 勅使ハ平和之處分製作所捕縛人受取等之事ハ時宜ニ依干戈を開き候も難圖故平和之處分与戰爭与區別順序を相立候儀ハ飽迄黒田も相心得居候 勅使ハ父子之御達ニ都合ヲ以製

作所等之事ニハ關係おしニ直ニ出帆之事相決居候戰事之方を以論シ候亦も軍艦二艘外ニ筑波兵隊巡查二千餘有之候得ハ十分ニ有之假令ハ賊モ嚴重備有之手ニ餘ル模様一應近海ニ避ケテ熊本へ相返シ兵隊を分配之義も黒田より適宜ニ相謀ツ候都合ニ御坐候ニ付必御安心被爲在度祈望仕候 勅使之事他ニ論も有之候由候得共外与ハ違ひ候ニ付初發より御手厚

聖意御貫キ相成居候得ハ假令事成るよ至らまとも跡ニなり候亦大ニ天下人心安堵仕候事与愚考仕候

一 今後之形勢ニ依募兵之事も最要用ニ有之候得共既ニ戰地ニ萬餘之兵員出軍加ふるに今六大隊之別働隊を急ニ差向ケ候陸軍之神算ニ有之是ハ熊本近海より賊之中腹ヲ突キ或ハ鹿兒島管内阿臨機ニ賊之背後を擊破スルノ目的久根より廻し候ヲ又ハ鹿兒島灣ニ廻キ臨機ニ賊之背後を擊破スルノ目的之由右ニ都合ニ相成候得ハ巡查相混シ殆ント二萬之兵員ニ可相成候得ハ何も不足与申義ハ無之今日之處ニ亦も官軍ハ陸續として日ニ相加ハ

此上陸地ハ難線込程之事ニ候間巡查ヲ名として相募候事ハ猶御勘考被爲在候様奉願候

一庄内之事ハ昨日前島少輔より參候電報ニ由れハ全平定之由故何も申上ニ不及候

右大略申上度如此御坐候唯今具定君御出中よて勿々採筆何も御宥恕奉仰候謹白

三月七日

利通

右府公閣下

再伸本文之外各縣情勢殊之外平穩ニ先以大幸之至ニ候當地も一時人心恟々タル模様ニ候得共即今ハよ々と安堵之形ニ有之殊ニ米價騰貴セサルノミナラス少々下落与申事ニ有之是ヲ以御高察被爲在度候也

【解説】一項ノ奈良原ハ繁有村ハ國産ニテ久光公父子ヲシテ勅

旨ヲ遵奉セシムヘク特ニ柳原勅使ニ隨行セシメタルナリ又製作所ハ磯ノ造船所捕縛人ハ曩キニ私學校黨ニ捕縛セラレシ少警部中原尙雄等ヲ云フ一項ノ勅使之事他ニ論も有之云々トハ勅使派遣ノ議ニ木戸顧問ノ反對シタルコト二項ノ募兵云々トハ東京ニ於テ巡查ヲ徵募シテハ如何トノ岩倉公ノ議ニ對シ利通ハ之ヲ可トセス猶ホ考慮セラレンコトヲ以テシタルモノ三項ノ庄内云々トハ豫テ西郷ヲ崇拜セルモノ多キ庄内ニ於テハ私學校黨ノ舉兵ヲ聞キ一時響應不穩ノ報アリシカ幾何モナクシテ鎮靜ニ歸シタルコトヲ云フ

【参考】岩倉公より大久保への書翰 明治十年三月十三日

(大久保家藏)

三月七日御細書昨十二日着正ニ令披見候先以彌御安寧御奉職欣然誠ニ此節之儀ハ不容易大事ニ立至リ夜白御盡力且御配慮之程如何計リ与令遙察候

一愚孫具定差出シ候處懇々御談話被下候趣當人々巨細申越千萬忝存候實々御用繁中却亦御面倒ヲ相懸ケ候而已ト御音信も差扣へ居候得共熟々考慮候得ハ御一新已來ノ重事件煩念ニ不堪愚存之次第申入候事ニ御座候

一勅使御差遣候儀ニ付彼是懸念愚存申入候處兵數軍艦巡查等之儀巨細被申越尙又着港ノ上御處分方云々御方略ノ次第も委敷御申越始メ亦安心候然ル處柳原黒田等ヨリ電報十日鹿兒島上陸總テ平穩且御委任ノ廉夫々都合能處分ニ趣爲國家大慶此事ニ存候

一今後ノ模様ニヨリ募兵之儀申入候處今更ニ六大隊別働隊云々神算之次第是以機密御内告ニ亦聊安心候併し小生ニハ西陲之賊ハ慄悍奮進只知有死而已ニ當ルヤ所謂丸ト柵トニテ吾ハ器械ヲ以テ當ルヲ上策トス昨今戰爭ノ模様彼果シテ散兵狙撃拔刀接戰彼ノ所長ナリ我將校士官素ヨリ力ヲ彼ニ十倍スト雖も徵募兵之力彼ノ長所ニ

當ルニ難シトス仍テ前條拙論ヲ述フ固ヨリ闔外之任アリ謾ニ不可言義ニ候得共老婆心一筆申入候

一庄内之處ハ彌無事ノ趣縣令ハ勿論處々ヨリ通知有之候間最早御安心よて可然存候

一如命諸縣存外平穩重疊此事ニ存候併シ勝敗之模様ニより進退イタシ候者も可有之趣佐賀人より申越候右ハ條公迄申入置候間定メテ御聞取ト存候

一鷺尾島本意外ニ隱謀有之今日致拘留候是も一昨日飛信ヲ以テ條公へ申入置候ニ付御承知ト存候此件少々入込候義ニ付書記官尾崎三郎差出候間同人々御聞取有之度候且條公ヨリ兼々御用有之候節ハ同人西下ニ義依頼ニ付旁差出候事ニ御座候

一東京一向出火無之總テ平穩御放慮右御請迄早々如此候也

三月十三日

具 視

大久保殿

追ふ具定暫時滞京申付ケ置候間萬一御通知被下候筋も有之候節  
同人は一寸御申聞被下候ハ、當人より直チニ可達候御用繁中聊御  
手数ヲ省き候事ト存候早々以上

一四一一 伊藤博文への書翰 明治十年三月八日

(伊藤公爵家藏)

【按】戦地ノ狀況ニ關シ各府縣へ内達スヘク意見ヲ求メタルモ  
ノナリ

諸縣よて戦地模様爲知吳候様申來候付過日來差扣置候別紙内達案差出度  
存候最過刻石井よて之報知ニ別隊ヲ以植木の進撃之趣相見得未陸軍よて  
何たる事も無之鳥尾方の一應御談被下候様奉願候兩三日時間も相立候故  
大ニ疑惑を生候趣有之由相聞候付却る現事を示し候方可然与愚考候此旨  
猶御尊慮を伺候也

三月八日

利通

伊藤賢臺下

【解説】別紙内達案ハ逸ス石井ハ内務權大書記官タリシ省一郎  
ニシテ熊本縣令富岡敬明籠城中ナリシ爲メ特ニ同縣權令心得  
ヲ以テ事務取扱ヲ命セラレ出張中ナリシナリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月八日

(大久保家藏)

利通 殿拜答

博文

地方官へ御示ニ相成候戦地之事情書一覽仕候又鳥尾へも爲致一覽何  
も異存無御座候陸軍へも別ニ報知も無之趣ニ御座候昨日も略如申上  
候成丈ケ報知ハ疎々ニ相示候方却る御都合宜敷歟と奉存候不然ハ勝  
敗共ニ不得不示ニ難溢出來可仕候尤此報知丈ケハ何も御不都合ハ有  
之間布奉存候ニ付早速御下達相成度奉存候也

三月八日

一四一二 伊藤博文への書翰 明治十年三月八日

(伊藤公爵家藏)

【按】伊藤ヨリ京都市行キノ了承ヲ求メ來レルニ對シ答ヘタルモノナリ

敬讀陳々今日西京へ一寸御歸被成度趣承知仕候即今ハ何も別段御用も無之唯戰報相待のミ之事ニ候間明日中御下坂被下候ハ、差支之筋有之間敷存候御令聞御眼疾兎角御快氣ニ不至候由折角御保養專要奉祈候此旨貴答迄艸々拜白

三月八日

利通

伊藤君

一四一三 伊藤博文への書翰 明治十年三月九日

(伊藤公爵家藏)

【按】近衛兵一大隊戰地急派ニ關スル勅許ヲ得ンカ爲メ木戸ノ

上京ヲ通シ來レルニ對シ答ヘタルモノナリ

近衛兵殘一大隊戰地の繰出度鳥尾よて申越候付る爲  
奏聞木戸君御出京言上可相成与之趣拜承仕候度々御苦勞之御事ニ存候得共宜御願申上候段乍憚御傳被下度此旨拜復艸々如此候也

三月九日

利通

博文賢臺下

【解説】近衛兵一大隊ハ勅命ニ依リ行在所守衛トシテ殘サレシモノナルヲ以テ戰地派遣ニ付キテハ一應奏聞ノ上勅許ヲ得ルノ要アリタルナリ「木戸君御出京」トハ木戸利通等ハ當時大坂ニ在リテ征討事務ニ參畫シタルナリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月九日

(大久保家藏)

大久保卿閣下

博文

近衛兵殘一大隊即今行在所御守衛ニ引當有之候處早急戰地へ繰出度

鳥尾ヨリ申越候ニ付るハ一應事由及 奏聞御許可を得候上ニ無之  
ハ難動且兼右一大隊ハ御守衛ニ相殘置候様 御旨も有之候趣旁  
て木戸唯今ヨリ一寸上京其段及言上可申との儀ニ御座候此段申上候  
他ニ何り御用有之候へハ爲御知可被下候爲其勿々拜具

三月九日

一四一四 伊地知正治への書翰

明治十年三月十日

(野瀬氏藏)

【按】鹿兒島縣ノ撫育方法ニ關スル意見書ヲ送り來リシニ對シ  
答へタルモノナリ

敬讀過日御願申上置候鹿兒島縣撫育方法御高案早速御認御廻被下別  
有儘ニ落手猶篤与熟覽可仕候戰地ニ報知昨日も無之田原坂ニ臺場一ヶ所  
未落ち得不申哉与被察候多分激戰を不要趣向よて徐々賊を疲勞せしめ候  
方策与想像被致候猶報知次第爲御知可申上候黒田も一昨日去鹿兒島に着

艦候半是も兩日中よえ報知可有之候少々御所勞之由折角御保養專要所祈  
候此旨貴答草々如此拜白

三月十日

利通

伊地知先生

【解説】利通ハ戰後ニ於ケル鹿兒島縣ノ民治撫育ニ付キ特ニ考  
慮スルトコロアリシヲ以テ一日大坂ニ滞在中ナリシ伊地知ニ  
會見シテ其ノ意見ヲ問ヒシモノナリ今日意見書ハ逸シテ見ル  
能ハサルモ伊地知ハ文武兩道ニ達シ經世濟民ノ學ニ精通セシ  
カ故ニ西郷大久保等カ隨時意見ヲ求メタルコト多キナリ十一  
年春伊地知カ鹿兒島ニ歸臥シタル際利通ニ贈リタル左ノ書翰  
ヲ見ルニ亦見識ノ卓越セルヲ見ルヘシ (田中鐵軒氏藏)  
拜啓着後當地ニ形勢大略は先達吉井君迄申遣し候ニ付蓋し御  
聞取被下候儀と奉存候生残り候故人親類大抵は無氣力間には

少數持論もありさうな輩も先づ私には遠慮いさし候模様左も可有之事と存候乍併凡そ見聞の趣にては既に死せるものは致方無之焼たる家は各の働次第故先づ私には無關係乍去困つた事には先年來縣下の物産過半は減少他縣並に外國の輸入物十に七八人氣は色々なれとも大略手足の働なく間々浮説流言政治上に及ぶものあり

但し再び縣下を反古として油忠の火くばりを爲さんとするに非らずして何となく殘念より説出すものゝ如し此類婦人に多し

縣令は賢令なり随分親切にして先見あるゝ如し先度御約束も仕候故爾後御處置振りの愚見謹んで申上候

但し産業の事柄は御沙汰通り岩山子に相談仕置候

凡そ亂後鎮定の御處分は追々順序其宜敷を得候得共私愚苦心

の決する處孔子の所謂衆民を安んし得て富しむるを計り既に富て教育を施すの三ヶ條にあるか乍併夫も時所位に應し三ヶ條併行仕るべき時も可有之は勿論に候歟先づ道橋の事武田信玄人の國を攻略し鎮撫の手始には橋梁の普請と道路の掃除を第一とせし仔細は屢亂後の人心を熟知して評議を盡したる事の由賢令茲に見る所あるか市街縦横一二の大道を開通に着手せりと之れ當時人民耳目の一新と永年市中の便宜と兩全の美事と謂へし然るに士街の橋々は既に半年の久しき尙戰爭當日破壊の儘なり初め惟に此の橋桁の破壊は大砲にて打壞したるならんと能々之を視察するに然らず悉く馬鹿者ゝハテ落したる姿也道路は焼瓦の丘を爲しあり之を如何んそ人民土地の新政に安んずるの思想を生せんや仍て一方より之を云へは市街の改革は急ならず共士街の道橋は急にすへきか抑も道路橋梁

の御修理には常法ありと雖亂後鎮撫の事は常法のみを以てす  
へきに非らずや今や縣下民費を募らんか餘財なし地主に其門  
前を修理せし然んか家に壯丁なし是れ速に御修繕なかる可ら  
ざる所なり況んや是等の御費用も僅少なるに於てをや云々

【参考】伊地知正治より大久保への書翰 明治十年三月十日

(大久保家藏)

御安泰奉大慶候然ま昨日ヨリ參伺可仕候處所勞ニ引入不得其儀候  
先達ニ拜承仕候鹿兒島縣下爾後御撫育ノ見込書壹冊相認差上申候間  
御手透ニ御一覽奉願上候尤今日午後暖氣ニ及び氣分宜敷候ハ、必ス  
參上可仕ニ候也

十年三月十日

伊地知正治

大久保利通様

侍史御中

一四一五 伊藤博文への書翰 明治十年三月十日

(伊藤公爵家藏)

【按】鹿兒島縣令推薦ニ關シテ林少輔へ交渉ノ結果ヲ報シタル

モノナリ

愈御清福奉拜賀候扱兼ニ御咄申上候鹿兒島縣新任長官ニ義林少輔ハ今朝  
序も有之候付發言致試候處少々迷惑ニ氣味有之候哉ニ憶察被致候仍ニ猶  
勘考を乞置候尤賢臺にも示談可致与之事ニ候若同人進ニ兼候得ハ強ニ申  
も甚氣ニ毒ニ候間別ニ勘考致申度御面會も候ハ、猶御咄合被下何分御取  
究被下候様御願申上置候此旨艸々如此拜白

三月十日

利通

伊藤賢臺下

猶々今日ハ別ニ御面會を要候との義も無之候付出頭不致候唯今戰  
報愈田原坂一砲臺を陥せ候趣熊本交通も今明日ニ可有之御同慶ニ候  
也



【解説】利通ハ鹿兒島今後ノ撫育民治ヲ考慮スルト共ニ縣令ノ人撰ニ付キテモ苦心セリ故ニ豫メ伊藤ト議シ曩キニ鹿兒島縣ニ兩度出張シテ縣下ノ事情ニモ通セル内務少輔林友幸ヲ最モ適任トシ今朝林ニ會見ノ序ニ就任ヲ勸説シタルナリ

一四一六 伊藤博文への書翰 明治十年三月十一日

(伊藤公爵家藏)

【按】戰地ヨリノ電報ヲ返送スル序ニ田原坂ノ戰況及ヒ熊本攻圍ノ狀況ヲ述ヘタルモノナリ

別紙電報返上候田原坂未拔兼候趣ニ候得共且夕ニ切迫之形勢被致想像最早今明日ニハ落去相違有之ましく候唯士官等可惜死を遂候義憫然之至ニ御坐候熊本之賊兵ハ多分戰地ヨ向ひ城下ハ空虚之模様之由今背後ニ兵を廻し城中も打テ出候得ハ一舉シテ討盡スヘキ機會ニ候別働之六大隊運搬ハ如何之都合ニ候ヤ三四大隊も相揃候得之決之不足ハ有之間布与被存候

猶鳥尾氏に御謀を被下度此旨艸々拜白

三月十一日

利通

伊藤殿

猶々今明日ニハ鹿兒島黒田之模様も相分可申歟与伸首仕候

【解説】別働ノ六大隊云々トハ陸軍少將大山巖ノ率キシ別働第

一旅團ノコトニテ是時既ニ其ノ一部隊ハ田原坂ノ戰線ニ着シ

戰鬪ニ參加シタルナリ

一四一七 伊藤博文への書翰 明治十年三月十二日

(伊藤公爵家藏)

【按】今井鐵太郎一條ニ關スル北垣國道等往復書ノ寫ヲ廻送シタルモノナリ

今井鐵太郎一條ニ付此内北垣國道等承候次第も有之其時分爲見合同人往復之書面寫爲差出置則別冊御廻申上候間御一覽置被下候様仕度此旨艸

々敬首

三月十二日

利通

尙々條公にも入御覽度候付御覽濟御返付可被下候也

【解説】今井鐵太郎ハ鳥取縣人ニテ同縣ノ内狀及ヒ時局ニ付キ北垣國道松田道之等ト往復セシ書翰ノ寫ヲ送リタルナリ

【参考】其一松田道之より大久保への書翰明治十年三月十四日（大久保家藏）

爾來御清適奉敬賀候陳々西方事件ニ就る々日夜御苦心不少与奉恐察候抑モ拙生舊縣下之儀ニ付る々閣下御發京之時粗申上置候儀も有之固々格別之儀々無之段自信罷在候處則チ別紙兩三通之如く申來リ大ニ安心仕候間爲御參考差上申候書中之安達清風々申者ハ閣下も御承知ニ可有之乎御一新前ハ京師之留守居相勤タル者ニして餘程才子ニ御座候得とも何分浮華輕舉之事多く決シテ信用致し難き者ニ有之當今ハ岡山縣ニ奉職罷在リ從來同縣令之知遇ニ御座候元來奉職之身

ニシテ此際遊說等ヲ爲スハ縣令之默許ヲ得タルモノ乎又ハ自己之舉動乎ハ難相分候得とも或ル新聞ニ依レハ岡山縣下之士族も先鋒出願シタリト果シテ然ラハ此安達流之直接又ハ間接之所爲乎之ハ是ハ眞之想像ニ御座候何も前後御參照御推讀被下度候也勿々謹白

明治十年三月十四日

松田道之

大久保卿閣下

【参考】其二今井鐵太郎より松田道之への書翰明治十年二月廿四日（大久保家藏）

内啓

此際御多忙奉察候西國犯順之事を吳楚七國之勢ハ既ニ之レヲ知レリ郷國之義ハ鎮壓方精々注意致し決シテ方向ヲ誤リ不申御安堵被下度候然るま去廿一日岡山縣奉職安達清風氏歸郷同族を振作スルニ勤王乞先鋒之說ヲ以テス其論ハ元ヨリ光明正大然るま乞先鋒之一事ハ我輩不服ナリ何トナレハ今政府ニ之鎮兵アリ近衛アリ警察官吏アリ制

禦之方ニ於テ又遺策アルナシ今實力も計らば先鋒ヲ乞ント欲スルハ政府ニ於テも入ラサル御世話ト見倣サルヘシ今之義務ハ鎮靜之二字ニ如クナシト因テ議論不合然も折柄警視局ノ警部井上某外一名鳥取ハ出張之處清風氏は是レニ面會其言フ處ハ定メテ縣下士族之義氣勃々タルヲ以テ之レヲ 政府も收メ先鋒ノ一部ニ充テハ以テ 朝廷ノ用ヲナスヘシ且士族中某々等ヲ收用シ器械彈藥等ヲ貸與スル等ノコトヲ盡力致サルヘシトノ事ナルヘシ(半ハ僕ノ想像ニ屬ス)因テ警部ハ俄も發足登坂シタリ剩サヘ我ハ輩之四名之名ヲ書シ警部ニ渡シタル由(之レハ親シク同氏ニ聞ケリ)因テ清風氏ハ昨廿三日發足歸廳之上早々登坂之積リ之由○總テ時勢ト人材ト適セサレハ其爲ス處悉ク疎漏ニシテ人ノ笑ヲ招クニ足ル因テ生等ニ於テも精々忠告致シ候得共名ツクルニ因循ヲ以テセントスルノ勢ニ付此際喧嘩も無用とぞんし用ケ瀬宿迄追テ別紙書翰遣し置候次第ニ御座候小事ニ候得共此際之事

へ不都合之事と頻蹙ニ堪へ不申ニ付閣下迄申上置候間御含置之上後日宜シク御申理被下度此段奉御依頼候自餘之差當り不都合之生し候様之儀も無御座候間全ク郷國之義ハ御安堵被下度候勿々拜具

二月廿四日

今井鐵太郎拜

松田先生閣下

再伸同氏之性質ニ惡氣之ナキ事之閣下も御承知之事少しも同氏ヲ非毀スルニハあらば全ク郷國ヲ愛スルノ至情ヨリ聊リ之不都合もナキ様にとぞんし前件申理之義御依頼仕置候段取分ケ御酌量奉願候早々以上

【参考】其三今井鐵太郎より北垣國道への書翰明治十年三月五日(大久保家藏)

二月廿六日發之御書翰本日相達し早々拜讀委曲了得僕ヲ責ル至重至貴感喜々々此亦欲僕ヲ疎潤打過候ヲ以兄之言此ニ及フ歟僕ハ兄リ知己之厚キヲ信スルヲ以然リ僕豈如此之馬鹿舉動ニ迷途スル者ナラン

ヤ阿兄幸ニ安ンセヨ今日之事ハ遅レル速レル少しく知識ヲ有スル者ハ已ニ之レヲ知ル然レモ西郷ハヤハカト思ひし西國之虎リ猫ニだを如るで又可笑しからばや我輩之目途ハ一意勤王之四字ニシテ即今之爲スヘキ事ヲ只鎮靜之二字アルノミ然リトイヘモ勝敗之數ハ正邪ヲ以テ定ムヘカラサル者アリ萬一逆浪滔天  
王師逡巡スルカ如キコアラハ國民タルノ義務袖手傍觀スヘキヨらサレハ必起テ

王室ヲ護衛シ窺海極天有死無二言フヘキ事ハ是レ迄ナリ今般之事ニ付テハ鄉國之儀ハ十分立派ニ致し度そんし乍不及苦心罷在候間全く御安堵可被下京攝間及ヒ九國之模様ハ時々報知有之都合よろしく候僕之見る處九國之事ハ十之九ハ官兵ニ勝算アリ不日鎮定ヲ期スヘシ憂ふる處ハ前途之事庶幾クハ當路ノ二雄權勢相軋ルナク此帝國ノ獨立ト此社會ノ幸福ヲ維持シ玉ハンコヲ我輩亦何ヲカ言はん心事紙上

ニ盡しかさく遠らば偃武之上矣僕出京リ兄來縣リ何レカして面談スル事有ランヲ欲ス他ナシ力食之方法ヲ謀ラント欲スルノミ其地松田氏始に御出會之節ハ郷里之事宜シク御致聲置被下度來翰奉讀即刻貴酬旁時下爲御自重是祈

三月五日午前十時

鐵太郎拜

北垣大兄

坐下

再伸御書中郷友社會ヲシテ壹人半箇モ迷塗ノ徒ナカラシメヨ云々今般ノ事ニ付テハ郷友社會一點ノ曇リモナク結局迄立派ニ遣リ通ス決心ニシカシ多數ノ同族故戸毎ニ論ス譯ニも至リ兼候得ま少し之妄想家之兎も角も重立候者ハ協議シテ方向ノ差違アルナシ依テ大牒大義ノ二字ヲ踏外ス事ハ誓テナシ少細ヲ以テ責メ玉フコハ御免之レモ及フ丈ケノ注意ハスル

一四一八 伊藤博文への書翰 明治十年三月十三日

(伊藤公爵家藏)

【按】黒田中將ノ建議ニ關スル山縣參軍ヨリノ返電ヲ問ヒ猶ホ自己ノ意見ヲ述ヘタルモノナリ

昨日鳥尾山縣ハ電報軍艦云々ニ義ハ未何たる返詞無御坐候哉幸黒田も參軍ハ電報イタル趣ナレハ何与り着手可有之候得共實去ル七日八日已來官軍一步を進め得ざる而已から損害甚多し今日ニ際死活之機を轉セサレハ城中限ある彈藥糧食如何ニ變ヲ出來スルモ難圖大兵ヲ以小戰ニ曠日持久候事策を得たるものニ有之ましく乍去實地ニ有ル將官ハ各經歷ある名士よして是等ニ神算有ルハ不及言候へ共縱令ハ某ヲナスモノ、一隅ニ戰急ナルニ他ニ良手ヲ下スニ暇あらざるノ景況ナシトモ難申若未有无之返詞無之候ハ、今一應黒田よて云々申來候趣ヲ以鳥尾よて相促し候ハハハハハ良將も一長一短ハ免ル可からざる處ニ候得或ハ一偏ニ

固守せる等ニ誤有之候ハ誠ニ大事ニ義ニ付不差置愚存尊臺迄ニ申上候間猶御勘考之上御見込ヲ以鳥尾ハ御示談可被下候併實地を踏ムモノニおひて意外ニ事情有ルハ萬承知仕候此旨艸々拜白

三月十三日

利通

伊藤賢臺下

再伸御覽後ハ投火奉祈候也

【解説】曩キニ柳原勅使ヲ護衛シテ鹿兒島ニ赴キシ黒田清隆ハ歸途長崎ニ寄港スルヤ田原坂附近ノ戰況及ヒ熊本城ノ狀況頗ル切迫セルヲ憂ヘ勅使警衛兵及ヒ巡查ノ一部ヲ以テ八代口ヨリ賊ノ背後ヲ衝クヘキコトヲ政府ニ建議シ自ラ其任ニ膺ランコトヲ請フ利通モ亦數日來ノ戰況非ナルヲ憂慮セシ際ナリシヲ以テ黒田ノ建議ヲ最モ時機ニ適セルコト、シ伊藤及ヒ鳥尾小彌太ヲシテ山縣參軍ニ謀ラシメタルナリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十三日

(大久保家藏)

大久保殿

博文

尊書奉敬承候參軍へ電報云々の儀至極御尤之義と奉存候ニ付早速鳥尾へ示談之上今一應電報差遣候様可仕今朝鳥尾ノ書面を以山縣ヨリ之返詞聞合候へ共今以爲何返辭無之候ニ付再應申遣先方之意見採聞取候亦爲御知可申上候不取敢拜答勿々頓首再拜

三月十三日

一四一九 伊藤博文への書翰 明治十年三月十四日

(伊藤公爵家藏)

【按】黒田中將ヨリ別軍ヲ指揮スヘク至當ノ名義ヲ與ヘラレタキ旨ヲ請求セルニ對シ意見ヲ求メタルモノナリ

黒田相當之名義請求之趣ニ付總督府參軍被命可然与之御談も有之候趣就亦去一應總督へ御打合セ之上ニ無之而去相濟ましく与愚考候其邊鳥尾与

之御談如何ニ候哉鳥渡御尋申上候過日山田に被命候節も別段名義無之候事故本官中將ニ候得ハ何も餘論有るふニ不被存候得共右通被命候ハ、無此上事ニて有之候此旨一應艸々拜白

三月十四日

利通

伊藤殿

再伸御打合セ相成候得ハ

黒田參議名義請求之次第有之總督府參軍被命可然与内定ス一應御打合ニ及至急御返詞ヲ乞

三條太政大臣名前ニ右通電報差出可申歟猶御高慮相伺候也

【解説】黒田清隆ノ建策ハ直ニ政府ノ容ル、トコロトナリシカ猶ホ伊藤ハ鳥尾小彌太ト議シ參軍ヲ命セラル、ヲ可ナリト爲シ利通ニ議ス利通ハ一應征討總督宮へ打合セノ上ニテ決スヘキヲ答ヘタルナリ遂ニ是日黒田ヲ征討參軍ト爲シ賊ノ背後ヨ

リ進撃スヘキコトヲ命スルニ至レリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十四日

(大久保家蔵)

利通 殿御直拆

博文

唯今別紙電報條公ヨリ到來一覽仕候處黒田ヨリ至當ニ名義叙任無之  
ホ夫他日紛議出來可致趣上申昨日も鳥尾と略相談仕候處よても參軍  
ニ被仰付候外ハ有之間布歟と奉存候勿論當身中將ニ本官有之以上ニ  
請求ニ付實地ニ臨候丈ケニ事なれハ總督府參軍ニ至當なるへし開  
拓使官員よて黒田隨行之面々ハ今俄ニ參謀ニ被仰付候譯ニハ參リ兼  
候歟と愚考仕候尙御高案次第可然御指令相成度奉存候頓首再拜

三月十四日

一四二〇 伊藤博文への書翰 明治十年三月十八日

(伊藤公爵家蔵)

【按】山田司法大輔長崎出張ノ件ニ付キ答書シタルモノナリ

敬讀過刻鳥尾示談之山田長崎出張之義當人御請可仕与之事ニ候由無此上  
存候付御達等之義書記官へ下命夫々取計可申候此旨貴酬早々拜白

三月十八日

利通

伊藤高臺下

【解説】是時ニ當リ更ニ又征討軍トシテ別働旅團ヲ編成シ山田  
顯義川路利良ヲ旅團長タラシムルノ議アリ依リテ利通ハ伊藤  
及ヒ鳥尾ト議シ先ツ山田ヲ長崎ニ出張セシムヘク伊藤ヨリ交  
涉シテ其ノ承諾ヲ得タルヲ以テ之レヲ利通ニ報シ來レルニ對  
シ答ヘタルナリ

【参考】山田顯義より大久保への書翰 明治十年三月十八日

(大久保家蔵)

拜啓

只今長崎表出張之命を蒙十日來之積鬱漸開散難有奉存候就テハ井上  
毅義熊本縣人ニホ彼地ニ進入ニ付ホ好都合之件も種々可有之候間

御手元ニテ御繰合相成候ハ、同行出張被仰付候譯ニハ相叶申間敷哉  
此段不憚忌諱相伺申候何分御一答奉願候頓首

三月十八日

山田顯義

大久保參議殿

一四二一 山田顯義への書翰

明治十年三月十八日

(山田伯爵家藏)

【按】岩村へ鹿兒島縣令就任ヲ交渉スヘク之レカ斡旋ノ爲メ來  
邸ヲ乞ヒタルモノナリ

過刻御願申上候岩村へ御内談ニ一條相濟候上明日ヨも拜命相成候様致度  
候ニ付何分御盡力可被下候且又近日中御入來被下候様御願申上置候處實  
ハ寸刻ヲ爭ふ大事ニ付若シ御差支無御坐候ハ、今夕ニも御願申上度左候  
得テ御書面ハ追テ御遣被下候ニ宜鋪御坐候此旨早々拜具

十八日

大久保

山田様

尙今夕御出被下候ハ、三字頃退出仕候ニ付御都合次第奉願候

【解説】岩村ハ山口臨時裁判所長通俊鹿兒島縣令就任方ヲ呢懇

ノ山田ヲシテ勸說セシムヘク來邸ヲ乞ヒタルナリ

一四二二 伊藤博文への書翰

明治十年三月十九日

(伊藤公爵家藏)

【按】渡六之助ヲ九州へ出張セシムル件ニ付キ同意ヲ求メタル  
モノナリ

渡六之助今日西郷從道添書を以到着是非戦地に參度趣承候然處明日川路  
發足ニ付同行致度与之願有之川路ハ鳥尾中將にも示談之趣ニ候間九州に  
出張被仰付候可然存候此旨一應伺貴慮候御異存無之候ハ、廻議ニ取計  
可爲致候此段艸々拜白

三月十九日

利通



伊藤 殿

【解説】渡ハ太政官少書記官タリシ正元西郷従道ノ添書ヲ携ヘ東京ヨリ大坂ニ着シ戰地出張ヲ請フ會々是日大警視川路利良陸軍少將ニ任セラレ九州へ出張ヲ命セラレシカハ渡ヲ同行セシムルコト、シタルナリ

【参考】其一伊藤博文より大久保への書翰明治十年三月十九日 (大久保家藏)

大久保 殿 拜答

博文

西郷中將書面一覽返上候渡正元戰地出張ニ儀御用有之候得ハ聊意見無御坐候尤當身即今文官ニ御坐候故井上出張と大同小異ナルヘシ尙御賢慮次第可然御取捨相成度候勿々拜復

三月十九日

再伸今日御談示申上置候件々木戸へ委敷相話置當人も至極同意ニ御坐候以上

【参考】其二西郷従道より大久保への書翰明治十年三月十五日 (大久保家藏)

爾來意外ニ御無音申上候引續御配慮日夜御盡力ニ御儀々奉遙察候陳ハ今般太政官少書記官渡正元御用ニ其表へ被差遣候處同人儀ハ曩ニ陸軍ニ從事シ軍隊上研究ニ次第も有之候ニ付同人ニ衷情且意見等御聞取之上當官ヲ以戰地へ被遣相當ニ向へ御使用相成候ニ如何可有之哉其地着之上ハ御面謁可申出等ニ付右様御承知置相成度候尤右ニ趣ハ鳥尾中將へも申入置候間可然御取計相成度此段申進候也

三月十五日

西郷陸軍中將

參議大久保利通殿

【参考】其三川路利良より大久保への書翰明治十年三月十九日 (大久保家藏)

鳥尾氏ハ早速差越置申候然ル處渡六之助戰地志望ニテ被參居由就亦私方ハ差越様御取成被下候ハ、別ニ仕合ニ義々奉存何分宜ク奉願候也

三月十九日

大久保内務卿殿

川路利良

一四二三 伊藤博文への書翰 明治十年三月十九日

(伊藤公爵家藏)

【按】山縣參軍ヨリノ電報及ヒ岩村通俊ノコトニ付キ答書シタルモノナリ

敬讀昨夜從山縣參軍云々電報有之被申聞趣承知仕候岩村判事之義も相心得候此旨拜復艸々如此再拜

三月十九日

利通

伊藤賢臺下

【解説】參軍山縣有朋ハ早晚激戦ニテ死傷ノ甚大ナランコトヲ豫想シ増援兵竝ニ器械彈藥ノ準備ヲ東京ノ西郷從道及ヒ在坂ノ鳥尾ニ要求セリ依リテ鳥尾ハ伊藤ニ謀リ伊藤亦之レヲ利通

ト議セシナリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十九日

(大久保家藏)

利通 殿親展

博文

昨夜半鳥尾來訪山縣參軍ハ電報到來戰地即今之形勢戰線十里余ニ跨且早晚劇戦彼我共死傷多く此先隨分大兵ヲ要スルモ難圖ニ付徵兵并ニ器械彈藥充分ニ用意相成置度云々東京西郷中將へ戰地より申遣候ニ付鳥尾へも篤々致熟考吳候様ニと申越候由右ニ付鳥尾之一考案有之老臺へも御相談申上吳候様談示ニ付後刻參謁可仕候  
昨夜岩村判事從山口來着今朝面會御用召之次第及内話置候今夕當リ御旅宿へ當人御尋申上るく歟と奉存候ニ付其節尙亦御直ニ御高慮之處御談合相成度余ハ後刻讓拜晤之期勿々頓首再拜

三月十九日

一四二四 伊藤博文への書翰 明治十年三月十九日

(伊藤公爵家藏)

【按】中原尙雄以下ノ請取方ヲ岡内檢事へ指令スヘク答書シタルモノナリ

中原尙雄以下之者着港之旨唯今相達候付達方取計中ニ有之候大洲鐵然一列無論護送ニ及ましく愚考候幸山田も入來ニ付猶直談可致此旨御答艸々如此候也

三月十九日

利通

伊藤賢臺下

【解説】是ヨリ先キ勅使柳原前光ノ鹿兒島ヨリ歸途ニ就クヤ私學校黨ノ爲メニ捕縛セラレシ少警部中原尙雄以下ヲ收容シ又縣令大山綱良ヲシテ隨行セシメ十六日歸京復命ス是ニ於テ政府ハ中原等及ヒ大山縣令ヲ東京ニ護送スルニ決シ會々長崎出張ノ命ヲ受ケテ大坂ニ在リシ山田司法大輔ニ命シテ中原等ヲ

引取ラシム依リテ山田ハ之レカ處理ノ爲メ同地出張中ノ檢事岡内重俊ヲシテ兵庫ニ至ラシムヘク伊藤ヲ通シテ指令ヲ乞ヒシナリ又大洲鐵然等ハ西本願寺ノ僧侶曩キニ鹿兒島ニ往キ布教ニ從事中私學校黨ノ爲メニ政府ノ間諜ナリトシテ捕縛セラレシヲ勅使ニ收容セラレタルナリ

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十八日 (大久保家藏)

大山綱良并ニ中原以下數名司法へ引渡之義昨日已ニ山田大輔へ申聞置候處何時ニ亦も差支無之指令次第ニ可取計との返答ニ御座候尤昨日までの處よて引渡候後可致如何と申事未定ニ附し置候ニ付今朝尙亦同人へ引合よる東京へ護送候方ニ都合可達示談候勿々拜復

三月十八日

【参考】其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月十九日 (大久保家藏)

大久保參議殿

博文拜

中原尙雄以下之者昨夜兵庫に入港之由岡内檢事彼地出張縣令丈ヶハ昨日受取濟之趣山田大輔今日長崎に出張ニ付而ハ中原以下ハ岡内檢事へ請取候様至急御指令相成度明日之郵船ニ而東京へ護送可致との事ニ御座候

大洲鐵然以下之ものハ東京へ護送ニも不及事歟と奉存候御高案如何ニ御座候哉若不及護送事ニ御坐候へハ大坂又ハ兵庫裁判所へ殘し置一應鹿兒島よて之顛末爲聞糺候上不審無之節ハ直ニ解放爲致候方可然歟と奉存候前文岡内へ御指揮至急書記官へ御申付相成度奉存候爲其勿々拜具

三月十九日

【参考】其三大山綱良より有栖川宮へ呈したる書明治十年三月二日(島津久光公實記)

今般陸軍大將西郷隆盛外二名上京ノ次第ハ兼て御届申上置候通ニテ既ニ去ル十五日當地發程致シ候尤通行ニ付テハ先ニ各府縣各鎮臺へ

通知致置候處熊本縣ニ於テ未前ニ廳家ヲ燒拂ヒ剩サへ通筋川尻迄押出シ砲撃ニ及候旨追々報知有之實ニ意外ノ次第ニ立至リ候然ルニ彼地ニモ去ル十九日當縣征討ノ命被仰出候哉ニ相聞得何共奉恐入候乍併西郷隆盛儀ハ先般辭表差上候以來縣下ニ於テ嚴肅謹慎致候且數萬ノ士族輩自費ヲ以テ學校ヲ開キ忠孝ヲ重ンシ諸士ヲ教導シ第一方嚮ヲ誤ラサル様勵テ説諭シ既ニ佐賀ノ暴動ニ引續キ熊本山口同斷ノ節縣内安靜終ニ一毛ヲ損セサルハ全國ニ明瞭ナルコトニ候處何等ノ懸念アリテ大久保利通川路利良ヨリ私怨ヲ以テスルカ容易ナラサル國憲ヲ犯シ暗殺ノ内諭ヲ下シ候儀實ニ海外ニ對シ乍恐政府上ノ御失體ト奉存候尤隨行ノ者共銃器帶刀ヲ以テ途中保護之儀ハ暗殺ヲ命セラレ程ノ者無異儀上京相途ヶサルハ勿論ノコトニテ不得止下官モ聞届置候就テハ彌當縣征討被仰出候上ハ縣官且士民ニ至ル迄御征討ノ御趣意ニ被爲在候哉夫々無名ノ恥ヲ蒙ラセ候テハ鹿兒島縣人民ト雖ト

モ皆王民ニシテ政府ノ命令ヲ奉セサルモノ一夫モ無之候ヘトモ何分士民舉テ動搖ニ立至リ候間至急御勅諭被仰下尤西郷大將之趣意モ致貫徹候様御處分被成下度此段愚誠ヲ以テ奉願候也

十年三月二日

鹿兒島縣令大山綱良

征討大總督有栖川殿下

【参考】其四柳原前光より岩倉公への書翰 明治十年三月十八日 (岩倉家文書)

聖上兩后宮益御機嫌能被爲渡御同慶之至奉存候閣下彌御清健奉賀候然去前光儀本月八日薩州到着勅使御用相整去十五日夜神戸へ着船翌日歸京行在所ニ於テ拜天顔復命言上太政大臣へ委曲演述即日下坂木戸大久保伊藤ニ面晤彼地景況施設事務談話昨十七日入夜歸京仕候鹿兒島事情ハ過般概略從長崎呈書仕置候得共尙爲御參考左ニ拜啓仕候一前光儀去月廿六日勅使奉命即日發京神戸到着勅使護衛兵司令長官並黒田參議共黃龍丸ニ乗込發航ハ本月一日ニテ翌二日福岡總督府

ニ至リ總督參軍ニ會晤右ハ戰地景況尋問且護衛兵加陪之爲メ也黒田ハ跡ニ残り前光ハ前發五日長崎到着其後黒田及護衛兵共會シ七日同所出發八日午前九時薩州山川港ニ軍艦四隻兵隊巡查船四隻會同整列警戒戰備ヲ注意シ三時鹿兒島磯前ニ繫船ス昨日春日艦より勅使來港候事先報せる故縣廳ニ旅宿用意等手當ある故城下人も之を知ると雖諸船數多なるニ驚き島津家ニ往き警備する士族もあり負子携女家具ヲ片附て立遁れんとする者あり頗ル雜沓なり前光到着直ニ黒田長瀨島津忠義船中へ來リ安ヲ候モ即勅書を交附ス之ヲ報知せしむ入夜島津忠義船中へ來リ安ヲ候モ即勅書を交附ス久光ハ病氣故名代として三男珍彦來る然れとも勅書丁重ニ親付せされハ不可なるを以て必ス久光ニ面會せんおとを告ぐ

一是日縣廳一等屬有松祐永來候花房書記官をして應接せしめ來意を報モ縣令書記官不來

一九日從昨夜到今朝護衛海軍兵上陸砲臺ヲ毀損ス人心爲之不穩也と聞ク喜入之土族二三百昨日西郷後援之爲當地へ可來處大山縣令より勅使來着ニ付可見合指示故不來島津久光使來る明日於邸内可請勅旨との事なり

一造船所ハ海軍彈藥製造所ハ陸軍にて明日處分及へく且西郷桐野篠原官位褫奪中原尙雄等受取之事征討御布告外國人引揚等ノ事縣下帶刀人禁止且明日島津久光邸へ行向ニ付爲護衛兵隊巡查大凡二千五百人許上陸スヘキニ付人心鎮定之様可致等諸件縣官有松祐永へ從前光以演舌書傳達ス

右之件ハ最初黒田參議へ御委任相成居候處當地へ來リ實際勘考之處從勅使傳達之方可然故黒田と協議シ之ヲ專斷之前光へ御委任ありし事となせり即歸京後此旨言上右事情尤之儀ニ付發足之節前光へ御委任相成居候振合ニ明日從政府御達相成候運ニ候是又言上候

一十日午前九時海上ハ海軍ニテ護衛陸軍巡查一時ニ上陸九時半前光黒田參議及隨行一同ト上陸直ニ島津久光邸へ行向同人へ勅諭交附懇々御趣意演舌候處謹奉戴盡力可致且今般暴動恐入候旨被申述爲御禮速ニ上京可致處戰地賊徒一敗せり鹿兒島ニ再歸シ再結巢窟或尙僻郷ニある士族爲後援可繰出等の事情不可計故ニ勅諭奉戴鎮撫ニ盡力シ奏實効候上上京御禮可申上此段從前光言上致吳候様演舌ニ候同公ハ從來方向判然更ニ不可疑者と存候

一同公間話ニハ西郷今度暴舉之儀舊冬極月頃城下よてハ西郷大山等屢久光へ密談まとの風評もあり甚きハ久光も暴舉同意故砲銃強て借受候杯との風評もありたり畢竟其名ヲ君臣之舊恩誼不可忘を借りたるものニ可有之西郷出陣前照國神社へ到り拜禮し又島津忠義門前よて各馬を下り拜禮して去れりと是蓋彼地島津舊恩を思ふもの多かれハ其志氣を鼓舞するの方略ならんと被察候

一又西郷の謀反する從來の素志ニ非を征韓論不行退職後ハ外患ある時之外不動を期し他念おし然レとも政府ニ處置ニ不満足あるハ勿論候昨冬長州肥後の亂起るを見て想らく天下從是瓦解政府ニ力不能制然らハ宜武力ヲ張り割據自防をへしと以是大ニ士氣を鼓舞し兵備を整ふ士族等ハ常ニ暴發せんとするも西郷從來鎮定せし故其機ヲ不得一旦其絆を解しより即其勢滔々として不可防然れとも長肥鎮定せし故西郷亦士族を鎮定せんとそれとも不服西郷去て温泉場ヨ行く此際赤龍丸來り彈藥を運搬す兵士等思へらく是れ討薩の前兆ありと即先んするに如かすと遂之を奪ふ此際警部ハ探偵ヨ來ると信し即捕縛拷訊し口供を作る又加ふるニ野村の自謝あり即壯士等西郷ヨ迫り西郷亦想らく此時ヨ當り反するも誅せらる反せざるも誅せらる如かすと大舉して先發せんと遂之決意東上を是れ西郷の暴動する所以ありと

一西郷の兵ハ百六十人一小隊千六百人一大隊總計十大隊即一萬六千人よて一軍ハ篠原二軍西郷村田三軍池上四郎四軍桐野五軍永山遊擊別府ヨして先月十五日十六日十七日と三日間ニ出發十五日桐野十七日篠原十六日西郷ハ途中より船よて發せし

一貴島邦太郎ある者別ニ獨立黨千人を帥ひ本月三日鹿兒島出發島津忠寛三男町田啓二郎三百人を率ひ久光の嚴諭を不肯先月十八日發せし飢肥五百延岡二百其隊長大島某高鍋二百坂田隊長之由等日向路より高千穂通りを經て熊本へ出陣此輩ハ西郷直轄ニ非を投機爲亂也貴島ハ豊後へ出し歟又ハ爲應援熊本へ出しや未確聞

一熊本籠城の堅固ハ賊の意外なる處ヨして谷少將の智勇ハ賊兵の落膽稱贊する處にて鹿兒島ニハ其英名を轟したり但城内樺山中佐重傷與倉中佐隈岡大尉等戰死兵糧乏敷且當月五日頃ニハ白砲到着故不日可落城と鹿兒島よて風説候

- 一 彼地へハ有勝報無敗報兒童走卒モ西郷之暴舉を義兵とし殆ント宗旨信向と同一揆よて且中原等の口供を確實と見て大久保川路を惡み今般の舉必捷と思へり大山縣令ハ黨賊故布告文を作り口供書ヲ假名付ケ西郷明の出兵を辻標よ廣示し民心を疑惑せしむ同人の總督親王よ奉りし書よても判然たり是薩人の彌政府を敵視する所以なり
- 一 賊手負二百卅人死者卅五六人西郷弟小兵衛桐野弟山内半左衛門戰死篠原ハ雖戰死祕之との風評あり眞疑不確然
- 一 西郷直管十大隊之内本營付二大隊未戰木葉口賊勝利之報ハ八日鹿兒島よ達せり
- 一 肥後よて藤崎神社花岡山よ地雷火伏せ置有之候處肥後士族より賊に報知し之を掘る熊本縣一等屬青木某密使を承け出城爲賊被殺候
- 一 西郷軍用金四十五六萬圓米三萬石彈藥支一年候是大山の話あり虚喝難計候

- 一 佐賀賊餘黨石井得久種子島ニ潜伏今度加賊木葉よて激戰也
- 一 久光ハ固より方向確然雖然中原尙雄及野村自訴一件ニハ頗疑惑有之勅使連れ歸の後政府よて直ニ放免せん事を憂へ其事を黒田參議及前光ニ告く兩人答曰ク暗殺ニ事決可無之雖然政府公平糺審し決て直ニ放免して不顧の事おしと此事ハ久光而已から及全縣之問題よて此御處分公明正大よ非されハ後日之物議難免屹度御注意有之度候
- 一 大山縣令へハ前光より御用召之達シ取計同船連歸候是ハ其上官位褫奪事情糺問有之候得去大ニ賊情洞察之裨益あるへき故ニ候
- 一 鹿兒島ニ所殘「スナイドル」銃彈丸三十萬發此他硝藥鉛丸の多數ある可驚事よて是を悉く彈丸よあさハ代價二百萬圓戰用一年程を支ふへし勅使護衛兵よて探偵取出し其可持歸ハ持歸リ手餘リ候者ハ投水火候



一 賊大砲十六門よて彈藥數多なる上頃日馬に百二十駄繰出しぬりと  
巡査をして追取せしむ然れとも惜むらくハ追ふと能さざらん  
以上件々ハ彼地ニ於テ耳聞ニ次第ニ候中ニハ虚實相交リ居候事も可  
有之候得共御參考可被遊候

一 十一日島津忠義及久光名代珍彦來り勅諭ノ御請書ヲ奉リ且勅書ハ  
寫して舊臣へ廣告し僻地へハ縣官ニ依頼し區長へ通達し置候旨ニ  
テ前途鎮撫方充分盡力ニ趣ニ候

一 十二日前光一行乗船出發殘居候外國人モ同船ニ候久光ニ二子送て  
海岸ニ到リ候

一 十二日三時前光出帆此時祝砲十九發直ニ揚碇十三日正午長崎到着  
外國人二名ハ於此處上陸其旨ヲ使花房ニ外務卿へ電報爲致中原一  
類大洲一類ハ上陸縣應檢事へ引渡即夜出發十五日夜神戸着十六日  
歸府復命候事ニ候

右件々及拜啓候公私多擾亂書不文御判讀奉願候也

十年三月十八日京都舊邸ニ在書

副啓黒田長溥平賀判事ハ暫時鹿兒島滞在十四五日頃彼地發足ニ筈  
佐土原息ハ從薩陸行舊領ニ到リ鎮撫且舍弟反正歸順ニ周旋致し候  
積忠寛ハ黒田長溥と同船歸京と存候奈良原繁ハ前光と同船大坂ニ  
到リ大久保參議ニ面談然後東京へ歸り候目途ニ候

右大臣岩倉公閣下

柳原議官

一四二五 岩倉公への書翰 明治十年三月廿日

(岩倉家文書)

【按】肥後ノ戰況及ヒ官軍ノ作戰計畫ヲ述へ猶ホ吉井へ傳言ノ  
コト島本ノコト大山中原等裁判ノコトニ及ヒタルモノナリ

尾崎三郎ハ御托ニ尊書相達謹讀益御多祥被爲涉奉恐賀候  
一 戰地ニ模様も追々電報御承知被爲在候通ニ順々都合能相運候得共賊

ハ死守之勢与相見得連日之苦戰与相成隨而死傷も不少實地之將官等嘸  
苦慮之筈与想像仕候乍去賊情も別而切迫用金彈藥等有限事ニ殊ニ近  
來人夫賃等も不拂得位之事故最早長ク相保チ候義ト萬出來不申与保證  
仕候黒田中將ハ賊之背後攻撃被任既ニ今明日到着一撃之期ニ有之猶又  
山田少將も同手ニ向ヒ川路大警視も少將被命今晚發船同地ハ向ヒ申候  
此際高瀬山鹿之兩道十分人數も繰込有之背後之一戰ニ勝敗相分レ候事  
故此ニ一層之力を用ヒ可申鳥尾も奮發追々繰出之兵迄都合八九大隊巡  
査千五百餘之人數ニ相成候間必一舉して賊滅無疑候  
一城内彈藥糧食等如何与關心仕候得共糧米も當月中ハ差支無之趣相分候  
付大ニ安心仕候流石名城ニ殊ニ地雷散彈ニ賊軍をあやまし候已來  
別而畏怖近ツクを不得若賊ニ良器械あらしめハ迎も難保候得共用意無  
之大幸ニ御坐候是レ兇賊之官軍ニ抗シ能ハサル所以ニ有之候  
一吉井も一昨夕到着面會御托し之御用筋拜承昨日吉井上京三條公へ申上

夫々御運相成候趣承自ら條公ハ御答有之候筈与奉存候

一島本一列之事も其後如何様之都合ニ御坐候哉誠ニ馬鹿等舖所爲必定戰  
地之模様ニ寄奸謀を廻らし候旨趣ニ可有之与被相察候猶其後之模様御  
報知可有之与相待候

一大山綱良も官位剝奪此節護送相成候中原以下も同様既ニ權大檢事岡内  
護送ニ亦今晚發船仕候中原以下之裁判ハ頗ル御大事与愚考仕候間臨時  
裁判所ヲ被開公平至當之御處分有之度希望仕候下官一身も關係有之  
候事故別ニ喋々不仕候

右御書之御酬且大略形行申上度如此御坐候奈良原歸東仕候付同人よ  
リ鹿兒島等之形行其餘粗相含メ候付御直聞可被成下候謹白

三月廿日

利通

岩倉公閣下

尙々城内并山鹿口高瀬口凡而戰地ハ出兵之數二十八大隊位ニ相及申候

一佐賀兎徒脱走之石井徳久ハ薩之種子島に潜伏致候趣即今戦地に出賊軍に從事致居候由此一事ニ亦も賊之意底一朝一夕あらざるを可證候且亦大山も必承知致居候ニ相違無御坐候

【解説】吉井ハ元老院議官友實ニテ大書記官尾崎三郎ト共ニ西下セルナリ島本名ハ審次土佐人ニテ岡本健三郎ト共ニ西南戦争ハ鹿兒島人ノ私闘ナルヲ以テ休戦ノ上西郷大久保ヲ處分スヘキコトヲ論シ元公卿鷲尾隆聚ヲ説キテ政府ニ建白セシメ又同志ヲ募リテ各地ニ宣傳センコトヲ謀ル會鷲尾ノ建白ニ因リ政府之レヲ探知シ同志ノ徒ヲ拘留シタルモノニテ尾崎三郎ヲ京都ニ派遣シタルハ之レカ頼末ヲ三條公ニ報告セシムル爲メナリシナリ尙々書ノ石井ハ武之助徳久ハ孝二郎ナリ

【参考】其一川路利良より大久保への書翰明治十年三月十六日 (大久保家藏) 御紙面拜誦仕候石井徳久之義を私も過日木戸殿之所ニテ聞キ申候同

人共事深ク手を附ケ置候義ニテ本人見へ次第ニ必ス縛スるべき事と相考申候尙早速着手可仕候也

三月十六日

川路利良

大久保公閣下

【参考】其二岩倉公より三條木戸への書翰明治十年三月十一日

前畧

別紙鷲尾隆聚より願書被差出候ニ付御廻し申入候此旨趣るや言語同断之事よて難差置ニ付明十二日表向き警察官よて寤と取調へ鷲尾ハ勿論連類之者盡く拘留可致内閣内評議仕候此段及御報候右ニ付追々探偵之次第左ニ申入候抑此謀主ハ島本審次岡本健三郎之兩人同人を鼓舞致候事之由今般之變動畢竟鹿兒嶋同藩士之戦闘と云ノミ如此ク幾千ノ人命ヲ絶ち幾許之人民不幸を受るや皆私戦之爲なり當此時宜敷久光を説き西郷ノ兵を弭メさせし 朝廷素より兵を好む之道

理なし去れハ双方休戦ノ上西郷大久保川路等始メ双方相當ニ處分ヲ爲シ早く平定人心を安ニスルヲ以テ急務トス此中間ニ入ル者ハ土州ナリ仍て先鷲尾を使ヒ追々同志を募リ此説を擴充シ天下ニ人心ヲ得大ニ爲ス者アリ仍テ近々島本岡木下坂歸國專ラ板垣ヲ説ク見込ニ由ニ御坐候意外ニ奸計ナカラ或ハ板垣動カサル、事無之とも言難シ御心得迄ニ申入候尙又此度何レハ勝候共天下ハ薩ニ天下也此時ニ際シ威力ヲ殺キ幸ニ土人志ヲ得ヘシトノ趣意乍去右等ハ極密探偵者より聞く處ニテ表面ハ鷲尾計リとし兩人ハ影武者ニテ隱然策ヲ施候次第ニ付表向き着手も不相成候過日來同志と申者凡そ八十名余ニ及ヒ候此表面別紙ニ通り報國社と唱へ第一 寶祚ヲ無窮云々ニ目的と名唱候由ニ御坐候別紙探偵書類入内覽候

一今日佐賀縣鎮撫としテ歸縣楠本ヨリ追々説諭今日ニテハ大体無事と見込候得共賊御討滅今二週間も落着不致節ハ佐賀ノミナラス外

々トテモ必ス變動難保見込ニ趣電報有之候素より中西國實地模様巨細御承知と存候得共御參考ニ爲メ申入候

一二月廿七日鹿兒島より迎取候外國人歸東ニ付鮫島緩々面談ニ處廿七日迄ニ處ハ縣下到テ靜謐久光も依然變ルコナシ遠方郷より士族後レテ罷出候者共ハ大山より最早用事無之候間歸郷可致旨申渡候由製造所ハ日々鑄造ノ様子乍ラ日曜日ハ矢張休日ナリ外國人ヘノ依頼器械彈藥詭方ニ儀ハ當分無之事保証いさし申候由一人歸國ニ外國人ノ次第も能ク致分明居候由御參考迄ニ申入候

一英公使サトウ等同行入來小子是も及閑談候處サトウ同縣ニテ間牒ト見做シ余程致疑惑候様子ニ付同人ニも遠慮何も尋問不致候由二月十八日同縣發途陸行八代より長崎へ船行其道中何も變りし事無之只佐土原通行ニ節百五十名計り日本服よて戎器を携へ出發ノ様子右ニ何故同時出發不相成哉と尋問候處鹿兒島計ニテ他ノ勢と不

交ニ付獨立よて何レへ成共可向トノ下知ニ付跡より出張ノ由右サ  
トウへ申聞候者ハ大山縣令ヨリ一人ノ案内者ヲ差副候由其者萬事  
懇切ニ世話致吳候處長崎よて被縛甚氣之毒ニ考申候由被申居候  
一鶴岡ノ景況追々靜カナル方ニ報知山形新潟兩縣令ヨリ内務卿へ委  
曲申入候儀与存候ニ付此ニ不贅候

一東伏見伏見兩宮武官ニテ專ラ御勤學中ニ處生徒不殘當分休業夫々  
編制追々熊本出張ヲ被命候者も多分有之然ルニ皇族ナリ武官ナ  
リ今日安然東京ニ居ルをき道理更ニ無之とノ事よて頻リ御歎願  
ニ候得共兼ニ御談ニ筋も有之候ニ付御止メ申置候然ル處陸軍省へ  
日々切迫歎願西郷も其志可賞又本營現場ニ御覽置被遊候ハ、  
御爲よも可相成旁福岡迄御出張可宜敷候ニ付山縣往復之上ニ候  
得共先大坂迄御出張萬事鳥尾ハ御談可然申入候趣仍之御機嫌伺ト  
シテ御出張相成候不得止次第ニ付此段御推量可給候尤東伏見宮ニ

ハ彌庄内暴舉ニ及候節ハ同宮司令長官ヲ以テ御出張有之度西郷面  
談ニ付其含ム御坐候

右ニ條々一筆申入候得共御用繁中決シテ不及御答候只兩宮ニ處丈可  
否御答相願候仍テ如此候也

三月十一日

具 視

三 條 殿

木 戸 殿

追テ賊徒暴發ニ際鹿兒島より當時捜査中石井武之助徳久孝二郎窃  
ニ佐賀ニ來リ元征韓殘黨ニ深ク謀議いし候儀ハ分明ニ事よて則  
御承知ト存候然ルニ其際早ク數百ニ巡查御繰込ニ有之候故不及變  
動趣向此上トテモ模様ニより巡查御繰込ミ聊ニても形ニ顯レ候  
者ニ速ニ拘留有之候ハ、可然歟例ニ過慮乍ラ愚意申入候早々

一四二六 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿日

(伊藤公爵家藏)

【按】伊藤ヨリ岩倉公ノ書ヲ廻送シ且ツ背面攻撃ノ捷報ヲ喜ヒタルニ答ヘタルモノナリ

敬讀巖倉右大臣よりの御書面を正ニ落手仕候如示諭背後初戦之吉報先々好都合此一撃ニ而凡結了有相違ましと曾我も着之由跡兵可成速ニ相續候様致希望候疎ハ無之事候得共猶鳥尾氏に御序御談被下度背後之地形ハ兩口与ハ違ひ随分兵員を要可申此旨貴答艸々拜具

三月廿日

利通

伊藤 高臺下

【解説】岩倉公ヨリノ書ハ陸軍少將曾我祐準ニ托シタルモノニテ次ニ掲ク「背後初戦」云々トハ黒田參軍ノ指揮セシ大佐高島勲之助ノ別働第三旅團カ十九日八代ヲ攻略セシヲ云フ

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿日 (大久保家藏)

大久保 殿侍史

博文

岩倉右大臣殿へ御書簡今日曾我陸軍少將從東京持參之趣よて過刻鳥尾ヨリ爲持遣申候乍失敬御先へ披封一覽仕候中ニ大山舊縣令ヨリ鮫島の差送候書簡ハ奇々妙々再三讀上他之書類と共に送呈仕候御落掌可被下候背後之一撃已ニ其端發開き候報知過刻相違第一着之吉報御同慶之至餘を讓拜眉勿々拜具

三月廿日

【参考】其二 岩倉公より大久保・伊藤への書翰 明治十年三月十八日

十八日曾我依頼

前略

追々ノ電報總而御勝利必ス不日成功ヲ奏セラルヘキト確信致候併シ聞外責任ノ人々勿論於御地各位も如何計之御配慮哉ト深ク令恐察候

一尾崎吉井等十七日十八日等ニ着ニ筈同人等へ呈書且傳言何も申入候ニ付爰ニ不贅

一大山綱良官位褫奪ニ儀被仰出候趣電報大ニ令安心候右御發令無之ニ付種々ト論客之ヲ評シ内閣始メ心配致居候事ニ御座候外ニ中原始メ口供書新聞紙ニ掲載無之ニ付種々申出候者有之ニ至る委曲ハ吉井ヨリ申入候筈付テハ鹿兒島縣原時行建言入御一覽候

一大山綱良ヨリ鮫島尙信ニ到來書翰寫壹通并ニ大木ヨリ差廻し候大山綱良密書一通御廻し申候

右要用ノミ如此候愚息代筆高免早々以上

三月十八日

具 視

大久保殿

伊藤殿

追々條公木戸氏等に別段不申入宜敷御傳聲有之度候東京府參事千

田は綱良ヨリノ書狀ハ則過日條公ハ差出シ置候以上

一四二七

前島密・松田道之への書翰

明治十年三月廿日

(松田家藏)

【按】肥後ノ戰況ヲ報シ猶ホ鹿兒島熊本兩縣官選任ノコト及ヒ戰後救恤ノコトヲ述ヘタルモノナリ

○各位彌御壯固被成御奉務奉恭賀候陳テ戰地ニ模様時々電報よて御承知の事と存候意外時日を要し候得共先順ニ相運候都合殊ニ背後ニ手已ニ相接し候間此一撃を以て凡結了ニ可至と目算仕申候乍去死守ニ賊此上決戰に可出ニ付多少の時日も相懸且人命も幾千相損可申候幸ニ城内至て堅固散彈地雷を以て屢賊膽を挫候故爾後近づくを得糧食彈藥如何と關心致し候得共糧食も當月中ニ決て差支無之との確報を得候間大に安心賊情は日々切迫余程弱り込み候形勢必不日大捷の報知可有之御同慶の至リニ候前島君より度々御紙面凡て落手時々御答も行届不申失敬ニ至リニ候鶴岡

云々ニ付旁御高配有之三島縣令より電報時々有之候ニ付事情凡相分居候先靜謐の趣よて無此上縦令起るにせよ少も憂るに足らぬ候唯今日之急務賊を討滅する外無之此成否ニ依て其影響は如何様共變し申す事に候當方へも地方より種々苦情等申出候得共何分根本退治不致候ては致方無之差向の急を除くの外其儘打捨置候

鹿兒島縣の義新任其人を不得甚困却仕候岩村通俊ニ隨分氣力も有之且縣官を經候者ニ付此外に人おしと存候間司法卿へ致所望候處承知有之直様御用召よて兩日跡上坂則面會内示ニ及候處斷然御請可仕との事に有之別て仕合の至りに候昨日上京致候て於彼地拜命ニ都合ニ候大書記官の所は當人の見込に任せ候積りよて其段申入候得共他に氣附無之下官考を以人撰致吳候様承候差當氣附も無之候得共同縣人は採用不致方可然存候判任ニは同縣人も無之ては事情不通よて差支可申岩村も同様の考よて候何れ戦地の模様相分り候上て無之ては唯今赴任致候ても如何ともする能はさ

るニ付暫時當地へ滞在爲致其内凡手を揃時宜次第赴任可致旨申入置候判任も多く新任ニ無之ては相濟間舖候ニ付廢官等の内よて七八名乃至十名位も御撰可被下候其内課長に可當者肝要と存候尤舊判任の内よて可然者は任用候て妨無之事ニ存候是は赴任之上あらては其人も分り兼可申候書記官の所は御氣付も候ハ、至急電信よて御申遣可被下候下官も勘考中ニ候松方へも御内談可被下候速ニ赴任可然との論も有之候得共新縣令居る上は初か肝要に有之充分恩威并被行候様無之ては該縣ニ難治況乎非常騷擾の際に於ておや自ら鎮兵も相備不申候ては不相濟東京巡查も數百名出張爲致置度其手順に至つて戦地少々片付不申候てハ即今出來不申候熊本は今一層の困難縣令開城の上自ら擔當盡力は無論ニ候得共書記官參事も桑原よてハ如此の際十分ならずと愚考候此内暫時上京致居兩三度面會も致候乍去是は猶縣令ニ見込を一應尋候上よて遅からぬと存候判任に於ては従前熊本人多く此節の變に散し候者も可有之且不用の者も大小可



有之候得え是も若干新任を要し可申与致想像候御舍居有之度候戸籍局人名云々御申遣致承知候外に見込の者は無之候間先當地迄御遣可有之候熊本凡平定候得え救助方且焼失等の始末方至急着手不致候ては即今より目も當られぬ有様の由に候殊に火災も云々の譯有之別て救助上には注意可致筋も有之殊に鹿熊兩縣は今後は平民へは十分仁政を施し感戴せしめ置度事に希望候仍る熊本々四五十萬も費し不申てハ始末相付申間舖ニ付其邊大藏卿へも御談置有之度吉原も此節出張の事故其期に臨み候ハ、自ら同人よりも可申立と存候  
右御回答旁草々如此候也

三月二十日

利通

前島少輔殿

松田大書記官殿

再伸松田君より御投書儘ニ落手鳥取縣の事情御示被下大ニ安心仕候

御先に拜見何卒人撰之件ニ御注意被下度御願候且明朝松方君へも御談示御願候

松田君

前島

【解説】鹿兒島縣令就任ノコトハ曩キニ林友幸ニ交渉セシモ辭退セシヲ以テ更ニ岩村通俊ヲ推薦シ其ノ承諾ヲ得タルモノニテ大書記官以下ハ岩村ノ意中ニ委セタルナリ越ヘテ廿一日岩村新縣令ノ任命アリシカ本書ハ利通カ戦後ニ於ケル鹿兒島熊本兩縣ノ縣治ヲ如何ニ考慮セシカラ語ルモノナリ

【参考】前島密より大久保への書翰 明治十年三月十日

(大久保家藏)

昨日之御電報ニ熊本縣地平定之上ハ民治御着手之御都合ニ依リ戸籍局ヨリ壹名可成え同局より猶奏任壹名不然え他より同官壹名合テ貳名可差出云々被仰越拜承仕候右之者々本日之船便ニえ間ニ合ヒ兼候ニ付次便船次第差出候様可仕候然ルニ次之便船迄ニえ必四五日間も

可有之又同縣地平定之上右之御着手迄ニハ又少時間も可有之哉と存候ニ付其間ヲ以テ左之件相伺御指揮ヲ相待候條何卒電報ヲ以テ御意被仰越度奉願候儀ニ即今ハ御承知被爲在候通リ其御目的ニ相應候様之人物ハ唯松平正直千坂之壹兩人ニ可有之然ルニ山形縣鶴ヶ岡之動靜も今後如何アラン萬一之場合ニ於てハ或ク千坂儀ニ右邊ニ出張セシメ度事も可生哉と被存然ルハ唯松平壹人ヲ庶務局ニ殘スノミ杉山一成ニ稍其目的ニ達スヘク哉とも被存候得共米國博覽會計算事務も有之橋本正人ハ當節彦根邊ニ罷在候ニ付同人ヲ御召使相成候否々如何可有御座哉若シ夫ニ可然候ハ、御手元より直ニ彦根ニ御下報被下間敷哉或ハ堺製糸場ニ罷在候歟或ハ河瀬秀治儀畿内邊ニ出張中ニ付同人ハ御下命被遊候ハ如何可有之歟何分本省ニハ無人中殊ニ其人無之様ニ被考候ニ付此段上啓仕候又贅言ナカラ已ニ熊本城ニ圍ヲ解キ同縣地民治上ニ事務ニ御着手相成候時ニ至ラハ品川彌次郎も御用ニ相

達シ可申富岡權令も其職ニ就キ得ヘキニ付石井省一郎も縣官ニ心得ヲ被免候ニ付同人も亦其御用ニ相就キ候儀ニ相叶可申何分其邊も御明慮ヲ以テ御差繰ニ相成間敷哉愚意ニ儘申上候右ニ御命令ニ違戻候義ニハ毫末無之候得共本省ニも其人少キ様相考候より一應相伺候且元より非常之節ニ御人使ヒニ付何様ニも本省常務ニ都合ハ論スヘキ次第ニ無之候ヘ共唯平定後縣治上御着手云々与之御電報ニ付少シク寛キ考ヲ起シ如此相伺候事ニ御座候戸籍局ヨリ可差出判任官壹名ハ便船ニ都合次第先ツ御手元ニ差上候様可仕候右可申上出船差掛草々不盡愚意聞筆再拜頓首

三月十日

前 島 密

大久保内務卿閣下

追テ戸籍局ニハ兵亂後ニ民治上ニ適スヘキ人物ハ乏敷ニ付其人ヲ得サルヘシト痛心仕候同局ハ是迄右等活潑ニ事務ヲ掌ラサルニ付

一四二八 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿一日 (伊藤公爵家藏)

【按】肥後ノ戦況ニ付キ答書シタルモノナリ

敬讀陳去山縣參軍より鳥尾氏迄向坂云々之報知有之候由甚關心不少事ニ候兎も角必死之賊殊ニ昨今ハ益切迫之筈与想像被致候間何卒植木を持留候様希望此事ニ御坐候若此ニ至退歩候ハ別ニ大事ニ御坐候山鹿ハかから及守を捨賊兵走候ニ無相違山鹿口官軍ハ進テ追討も可致筈与被考候得共何分實際左様參兼候哉案ニ落テ不申候

木戸氏別紙ハ返上候報告者差立候事ハ下官歸宿直ニ電報差出置候

警視局心得書ハ差上候爲寫置候付御一覽御返可被下候

右回答艸々拜首

三月廿一日

利通

伊藤 殿

【解説】田原坂方面ノ官軍ハ廿日早朝行動ヲ開始シ二俣方面ヨリ賊壘ヲ猛撃シテ之レヲ拔キ右翼諸隊モ亦勢ニ乗シテ植木ヲ突キ向坂ニ迫レリ然ルニ山鹿口ノ賊官軍ヲ横撃セシ爲メ再ヒ植木ニ後退ス此ノ急電山縣參軍ヨリ大坂ノ本營ニ達スルヤ伊藤ヨリ直ニ報シタルヲ以テ利通ハ形勢ノ非ヲ大ニ憂慮シ植木ヲ固守センコトヲ希望シタルナリ

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿一日 (大久保家藏)

大久保 殿 御直拆

博文

先刻御歸宿後無間鳥尾來訪戦地ヨリ一電報有之候處昨朝官軍植木ハ引續向ヒ坂迄進撃セシ處山鹿口ニ賊引返シ我軍ヲ横撃シ一時ハ苦戦終ニ再ヒ植木へ引揚ケ同所ヲ固守スル由然ルニ兵員不十分哉之趣増兵之手段ハ無之歟と申越セシ由右横撃之時刻昨夕之事と申事就ルハ

過刻之一報昨夜來之大雨ニ乘シ山鹿口之賊舉テ走リタルト云ヲ以テ見レハ最初我軍ノ田原坂ヲ拔キ植木ニ出テタルヲ聞キ山鹿ヨリ幾分カノ兵ヲ割キテ植木ノ應援ニ出シタル者ト見エ昨夜來山鹿ヲ舉ケタル賊兵其後植木ヲ守レル我兵ニ當リタルニ相違ナシ此報未タ達セス甚懸念ナリ如何トナレハ我兵ハ向ヒ坂ニテ小敗ノ後植木ニ引揚ケ踏留リタル所ニ山鹿ノ賊兵二千餘ヲ以又我兵ニ向ヒ此勢ニ乘シ向ヒ坂口ヨリモ迫ルヘシ田原坂ニハ未拔ノ壘アリ甚危機ノ際ト煩念仕候別紙木戸ヨリ唯今到來士官ハ明朝差出スト電報遣シ置候御一覽之上御返却可被下候  
警視ノ論文御不用ナレハ一寸拜借仕度唯今御入用されハ跡よて宣布候勿々拜具

三月廿一日

【參考】其二西郷隆盛より大山綱良への書翰 明治十年三月十二日 (岩倉公實記)

(十五日官軍二侯口ニ於テ賊軍ト大ニ戰フ幾ント賊ノ全軍ヲ鏖殺セントス蓋シ交戦以來第一ノ劇戰ナリト云フ此日總督本營ヲ久留米ニ進ム抑田原坂伊倉二侯ノ戰鬪ハ既ニ二十餘日ヲ經テ官賊兩軍殺傷算ナシ此ノ如ク官軍ハ幾百ノ勇士勁卒ヲシラ碧血ヲ邱陵草本ノ間ニ灑カシメテ熊本城ノ圍ヲ解カント期スル者ハ蓋シ熊本城ノ保守ト陷落トハ天下ノ大勢ニ關係スルヲ以テナリ(附註) 鹵獲中ノ物品中ニ西郷隆盛ノ大山綱良ニ遺ル書翰アリ亦以テ隆盛ノ心事ヲ知ルニ足ル)

迫田隆藏外一名御遣被下來船之次第承知致候下拙事柄分兼候得共敵方策も盡果候而調和之論ニ落候歟畢竟敵方ニ於テ熊本落城ニ相成候而各縣蜂起可致ニ付全力ヲ熊本ニ相盡於猶事破れ候ハ、もふ無致方それ切との策相立候儀儘ニ聞得候ニ付即彼之策中ニ陥リ此籠城をゑとニ似し四方之寄手を打破り候得ハ此處ニテ勝敗相決可申地形

按スルニ實  
記所載ノモ  
ノト大西郷  
今集所載ノ  
モノト小異  
アリ今後者  
ナリ照シテ  
訂正セリ  
(編者記)

と云ひ人氣と云ひ其所を得候ニ付我兵も一向此處ニ力を盡候處既ニ  
 戦も峠をやり過し六七分ニ所ニ打付申候今ヤ孟賁ありとも再ハ戦勢  
 をもり返し候期有之間舖餘程敵ニ兵氣も挫多候ニ付少し此間ニ息を  
 休め油斷爲致候而又一策を廻し候目算ニ相違無御座候間決る狸ふた  
 まされさる義肝要ニ事ニ御坐候征討總督ニ令書先日差上置候全く暗  
 殺ハ打消し候趣合戦を幸と致候旨ニ相見得可惡ニ巧ニ御坐候然る上  
 ハ何分曲直分明からされハ鎮撫もへちまも無之斷然條理ニ不相戻候  
 處御盡力可被成下候最初より我等におゐてハ勝敗を以て論し候譯よ  
 てハ無之本々一つ條理ニ斃れ候見込ニ事ニ付能々其邊ハ御汲取可被  
 下候様偏ニ企望いふし候也

三月十二日

西郷吉之助

大山 綱 良様

追啓別紙當縣ニ兵隊協同隊より探偵差出候處探得候形行申出候ニ

付差上申候大概四方ニ模様も同様ニ御座候久留米柳川肥前邊より  
 ハ追々報知有之候

一四二九 伊藤博文への書翰

明治十年三月廿三日

(伊藤公爵家藏)

【按】戦地ヨリノ使者へ面會ノコト及ヒ岩村通俊ノ旅宿ヲ問合

セタルモノナリ

再伸東京ハ參候ニ大隊ニ兵ハ何日比長崎ハ相廻リ候日限ニ候や背後  
 之方も戦争相始候趣速ニ跡兵相續候様希望仕候此方ハ一步も不誤候  
 様有之度事ニ御坐候

戦地ハ之報告者昨日歸坂相成候ハ、猶又地形等尋問取調置度候旅寓迄入  
 來相調候得ハ別ニ仕合ニ候乍御面働御傳被下候様奉願候且又岩村も昨日  
 中歸坂ニ趣承居候旅宿何方あるや御承知候ハ、爲御知被下度此旨艸々拜  
 具

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿一日 (大久保家藏)

三月廿三日

利通

伊藤賢臺下

【参考】其二 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿三日 (大久保家藏)

過ル十七日出足よて戦地ヨリ陸軍大尉平賀國ハ戦情爲報告昨夕神戸到着鳥尾方まで相達候趣よて唯今來訪書簡并ニ熊本地圖等持越大略戦争之模様直話ニ承申候追付鳥尾も來會之趣傳言有之候故御都合次第御遊歩旁御出浮相成候否如何尤尊宿へ差出候も何も差支無御座候無御遠慮御都合可被仰聞一應相伺候迄寸毫勿々頓首再拜

三月廿一日

大久保盟臺貴答

博文

戦地之報告者昨日歸坂之筈ニ御座候處未回早速鳥尾方へ申遣尊寓へ伺候致候様可爲相傳候岩村歸坂之事ハ不承且旅宿も慥ニハ不存候へ

共先日ハ北之新地今喜と申茶亭ニ一泊之由ニ御座候彼方相探リ見候へハ相分リ可申尤歸坂かれハ直ニ訪來可申筈と奉存候東京二大隊ハ今朝長崎へ入港之筈と覺へ居申候先ハ貴酬勿々敬具

三月廿三日

一四三〇 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿五日 (伊藤公爵家藏)

【按】上京ノコトヲ通知シ來レルニ答へタルモノナリ

敬讀今日之西京へ御出之趣承知仕候當時別る閑靜ニ付御決心御出有之度此旨拜答艸々如此拜首

三月廿五日

利通

伊藤賢臺下

一四三一 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿六日 (伊藤公爵家藏)

【按】神戸海軍出張所ノコトニ付キ答書シタルモノナリ  
敬讀神戸海軍出張所之事云々被示聞拜承仕候林大佐今晚明朝ニ懸一應參  
ルトノ事ニ付直談可仕候此旨貴答艸々如此ニ候也

三月廿六日

利通

伊藤賢臺下

【解説】西南ノ變起ルヤ政府ハ臨時海軍事務局ヲ神戸ニ設ケ廿  
五日海軍大佐林清康（後ノ男爵 安保清康）ヲ局長ト爲ス時ニ參軍川村純義  
ハ長崎ニ在リシカ肥後及ヒ鹿兒島方面戰況ノ進展ヲ察シ神戸  
ノ海軍出張所ヲ長崎ニ移サントス然ルニ伊藤ハ之レヲ不可ト  
シテ林ヲシテ川村參軍ニ交渉セシムヘク指令ヲ乞ヒシニ對シ  
答ヘタルナリ

【參考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿六日

（大久保家藏）

大久保殿

博文

別ニ貴答を不煩候間本文御取捨可然御指揮只是祈而已

河村參軍長崎へ出張神戸海軍出張所も引拂長崎へ移轉云々之義ハ戰  
争も手間取且ハ海軍之一手専ら長崎ヨリ肥後海鹿兒島を掛ケテ之關  
係甚大ナルヲ以長崎ニ根據を占メ四方ニ號令スルノ手段と被推察申  
候然ルニ林大佐も引拂候外無之段從神戸電報ニ御座候處一段落相着  
候迄攝海より出張所又ハ海軍事務引受候士官居住無之候てハ差支不  
少と奉存候就而ハ林より河村へ右邊之事電信にて懸合候様御指令相  
成候而ハ如何御高案相伺度候也勿々拜具

三月念六夜

一四三二 前島密への書翰 明治十年三月廿六日

（前島男爵家藏）

【按】鹿兒島縣ノ縣治ニ付キ打合セタルモノナリ

可然云一

（殘闕）

致候

同縣之義此際之事ニも有之兼而人氣も驕傲ニ候間是非鎮臺分營を置兵力を備且東京巡查三四百名も繰込警察上を十分配布恩威ヲ以治不申候ハ如何様之名縣令ニも六の舖候分營之義を陸軍卿にも談置候付必被相行可申候且警察上之事は是非警部其人を得候義肝要ニ有之警視局を差出申度川路へも談置候乍去當分可然者ハ凡る出張之事ニ付兎角西南了局之上からてハ致方有之ましく存候得共安藤へハ豫しめ御談置可被下候

岩村よと伺定め度件々ハ第一人撰之事ニ候得共其餘大藏省へ關係之件不しも家祿之事 祿渡過之事 横山に被相渡候家祿金額之事 定額金之事 大略右之件々ニ候自ラ同人よと可申出候付大藏卿に宜御示談有之度松方へ申遣置候得共同縣之義全體難縣タル上此節紛擾之餘他縣与一様視スル事ハ甚無理与被存候付大藏省之事ハ規則を以推し候義當然ニ候得共今般之事是非出格ヲ以御評議有之候様致希望候尤規則を曲ケ候義を素よ

り所不好ニ候間金額ニ關係之事ハ凡る非常費より支出有之ハ如何与存候自ら同卿之名案可有之与存候得共一寸申上置候此涯同縣港内へ御用船繋置度云々之願も有之候是れ同縣人民持之船も有之候故其費用さへ許可有之候得共如何様共可相調候間是以大藏省へ申出候様談置候付御合置可然御打合セ可被下候

右要用申上度如此餘ハ岩村よと御聞取有之度候也

三月廿六日

利 通

前 島 少 輔 殿

【解説】同縣トアルハ鹿兒島縣ノコトニテ鎮臺分營ヲ置キ且ツ警官ヲ増遣シテ治ムヘキコトヲ述ヘタルナリ安藤ハ中警視安藤則命岩村よと云々トハ縣令岩村通俊ヨリ大書記官以下ノ人撰鹿兒島縣士族ノ祿金下附及ヒ豫算案等ヲ決定センコトヲ要請シタルモノニテ利通ハ鹿兒島縣ハ他縣ト同一視スヘカラサ



ル事情アルヲ以テ諸費支出ノ議ハ大藏卿ノ特別詮議ヲ求ムヘキ旨ヲ希望シタルナリ

【参考】前島密より大久保への書翰 明治十年四月三日

(大久保家藏)

時下益御機嫌能被爲涉恐賀之至奉存候陳過日岩村通俊出京之砌々々御手書ヲ拜受御垂諭之趣逐一謹承仕候然ルハ鹿兒島大書記官之撰擧之件ニ就テハ御意与背馳シ御示命ニ應セざる段甚以恐縮仕候然シ人見生之儀ニ就テハ岩村着京直様大隈其外より其人其任ニ不適之趣ヲ承知候處本省ニ於テも松方々大ニ同生ヲ不足与シ松田及小官ニモ同按ニ有之尙其他にも開合試候得共何レモ足レリトハ不致様子勿論御來示之通り同生々同縣之人情地況モ心得居候ニ付岩村之願ニ就テ御撰擧至極尤之次第々奉存候得共右様衆評之同音ニ出ツル上々唯々御垂諭ニ追隨候々大ニ將來之不都合ニ而閣下之大明ヲ謬リ候ニ付不取敢其人トナリヲ申上御差止ヲ乞ヒタル事ニ御座候且又渡邊

千秋儀々小官々未タ一面之知モ無之又松田モ同斷ニ候得共兩生モ嘗テヨリ其人ト爲リ其能力ヲモ傳承仕居リ筑摩縣奉職中之履歷ヲ以テ察スルモ果シテ然ルヘキカト被存又松方ニ々嘗テ其人其能ヲ能ク承知致し居候趣其他之人ニ質スモ皆然リト申候ニ付愈然ルヘシト相考又其親屬ヲ以テ論スルハ甚不安之事ナレモ小池高知權令之兄ニシテ其血脈モ優等ナルカ如ク或ハ小池ニ勝ル數等トノ品評モ有之夫是ヲ以テ參照スレハ鹿兒島之事情ヲ承知不致も人見ニ優ル萬々ナルヘシト一同愚考ヲ相決シ岩村モ亦之レニ同意シ尙司法卿へ問合候趣之處可然旨之返答ニ有之依テ竟ニ同人モ之レニ決議シ是亦不取敢伺上候次第ニ御座候右之次第ニ付御電報之趣ニ依リ早速内閣に開申仕<sub>別段書</sub>不<sub>上</sub>申候處即時決定其日飛信ヲ以テ御用召相成候但同人々新潟裁判所七等判事奉職罷在候

北垣國道ヲ同縣七等出仕へ御採用之儀々岩村開拓使奉仕中同僚ニ而

其人ヲ能ク知リ居候とリ特別ニ御詮議ヲ以テ被差許度旨大隈へ申出内閣ニおま名案無之旨ニ付相伺候事ニ御座候元々御別案被爲有之候上々何等可申上様も無之候得共爾後も頻ニ御許容ヲ願候趣申聞ケ候定る岩村とリ電信及郵書ヲ以テ尙願出候儀与奉存候何卒厚ク御明斷被下度候

右ニ趣申上候也

四月三日

前 島

密 言

大久保内務卿閣下

本省ニ渾テ無異御放念可被下候

一四三三 松方正義への書翰

明治十年三月廿六日

(松方巖氏藏)

【按】鹿兒島縣大書記官以下ノ人撰ニ付キ依頼シタルモノナリ拜啓愈御堅固被成御奉務奉敬賀候陳ハ此内度々御投書ニ預御答も不申上

多罪々々西南ニ模様官軍必勝ニ地を占最早我掌中ニ之の与相成御同慶ニ至ニ候

一鹿兒島縣令岩村通俊御請相成誠ニ仕合ニ至ニ候就而此節書記官并ニ屬官人撰且其餘伺定めニ爲暫時出京有之候書記官ハ同人考ニハ鹿兒島人ニ望ニ候得共種々勘考ヲ廻らし見ても氣付無之候上村おとハ随分与存候得共承候得ハ少々云々も有之候由ニ而迎も御請致ましく仍而愚考ニハ人見寧義同縣ハ一應遊歴人望も有之候間可然与存候同人ニ迷惑歟も難圖候得共爲人氣膽も有之候故憤發出來候半与信用ハハ候中々尋常一様ニ人物ニ而ハ所詮六の舖候間貴臺より十分御示諭被下度候勸農局ニ而も必用ニ御困りと存候得共大小輕重御參酌御斷決所仰候乍去若外ニ可然適當ニ人物御見込も有之候ハ、猶承知仕度候此内前島少輔迄申遣置候間自ら御示談も有之事ニ候半御名考も候ハ、無此上候一考ニハ小子手元ニ有之候西村与存候得共是ハ未事務ニ馴不申候故少シク不安心ニ有之候殊ニ鹿兒島

ノ人心ハ氣請第一ニ候間人見之方萬々存候判任ハ屬官連多々有之故十分ニ其人を得可申候得共課長之處容易ニ無之尤是ハ同縣人も無之候ハ事情不通之患も可有之候間御熟考可被下候

一大藏省御伺之件も不少候付岩村ハ御談可申上候付宜シク御盡力可被下候今日之際決ハ他に同縣ハ御請致候人ハ無之候故少シハ出格之御取分ケ無之候ハ甚無理与存候付例之大藏省之規則ツクメハ御用捨有之度候同卿にも其段御傳可被下候

右御頼申上度艸々如此何も同人ハ御聞取可被下候拜首々々

三月廿六日

利通

松方雅兄

【解説】人見寧ハ新町屑絲紡績所長タリシカ同人ノ鹿兒島縣大書記官就任ハ事情アリテ實現セラレス四月十二日ニ至リ渡邊千秋ノ任命ヲ見タリ

一四三四 松方正義への別啓書翰 明治十年三月廿六日 (松方巖氏藏)

【按】鹿兒島縣々官人撰ニ關シ奈良原繁ヲ差遣スヘキコトヲ述ヘタルモノナリ

別啓

鹿兒島縣人撰等之義奈良原近情を得候間内々同人ハ御認可被下候最此上之模様ニ依ルハ同人鹿兒島ハ參候様之義有之候得ハ如何様共御請可致候付申遣吳候様承居候仍考候ニ岩村參候節去前後ニ同人を差遣候ハ、旁都合も可宜与愚考候付其旨御致意被成置被下度候左候得ハ岩村出發之節同行ニ亦も其前ニ亦も上坂有之様御談置可被下候也

三月廿六日

利通

松方殿

一四三五 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿七日 (牧野家藏)

【按】三條公ヨリノ書ヲ廻送シ且ツ林大佐ト會見ノ結果ヲ報シタルモノナリ

別紙三條殿より御廻有之付差上候乍毎英公使御世話過キハ面働之事ニ候  
扱林海軍大佐昨晚參候付直談致候處町田大主計并ニ東艦長澤某相殘居候  
付同人等ハ御用有之節ニ申聞吳与之事ニ候猶委曲御面上可申上此旨艸々  
拜具

三月廿七日

利通

伊藤 高 臺

【解説】別紙ハ逸ス英公使「パークス」ヨリ熊本城トノ連絡通シタルニ付キ賊軍處分ニ關スル何等カノ意見ヲ提出セシモノナラシカ又曩キニ神戸ノ海軍事務局ヲ長崎ニ移サントスル議アリシカ林清康ト會見ノ結果ハ町田大主計ト澤東艦長ヲ神戸ニ殘留セシメ林ハ長崎へ出張ノコトニ決シタルナリ

一四三六 伊藤博文への書翰 明治十年三月廿八日 (伊藤公爵家藏)

【按】福岡縣令ヨリノ報告書ヲ廻送シタルモノナリ

別紙唯今福岡縣令より届有之候此際可成不顯方宜ク被存候付先貴臺迄差  
上何方へも相廻不申候後刻迄委舖事可相分候間其上西京にも申上テ不遲  
与存候左様御合置可被下候也

三月廿八日

利通

伊藤 賢 臺 下

【参考】其一 伊藤博文より大久保への書翰 明治十年三月廿八日 (大久保家藏)

大久 保 殿 呈 拆

博 文

唯今福岡電信分局ヨリ過刻差遣置候返信到來則左ニ通

伊 藤 殿

福 岡 分 局

唯今暴徒四五百名ヲヲヤスミ山ニ聚リ巡查兵ト戰ヒ中勝敗未タ決セ  
ス鎮壓ノ力充分ノ由且不通ノ義ハカタカス村ニ於テ三線共斷線最早

全通谷村放火未タ鎮火セス平尾村ハ益熾ン春ヨシ村ハ最早鎮火

三月念八

【参考】其二伊藤博文より大久保への書翰明治十年三月廿八日 (大久保家藏)

大久保殿拜答

博文

福岡縣令ハ條公へ同様ニ報知ニ及候其寫電信分局ヨリ小生手許へ差出申候故ニ別ニ西京へ御申遣ニハ不及事と奉存候

從福岡縣令ニ電信御回送一覽之上乃返上仕候如貴諭即今撲滅中ニ御座候得ハ大概成跡相分候上公發候方可然五百人位カレハ格別手間取候程ニ事も有之間布過刻ニ報知丈ケハ木戸へ爲見置申候此段御心得迄申上置候不取敢拜答勿々頓首再拜

三月念八

【参考】其三伊藤博文より大久保への書翰明治十年三月廿九日 (大久保家藏)

福岡分局十字五分發ス

唯今以西各局へ不通且當局ヨリ指シ渡シ一丁南ノ方二箇所ニ火ノ手揚ル此段上申

尙亦前文ニ通報知甚不容易勢ニ付及御報置候也

三月念九

博文

大久保老臺下

一四三七 大隈重信への書翰 明治十年四月朔日 (大隈侯爵家藏)

【按】高知縣ノ動靜ニ付キ打合セタルモノナリ

拜啓益御安康被成御奉務奉敬賀候陳々高知縣ニ模様密偵いふ候ニ外面ハ格別ニ事も無之候得共其實々決而安心スヘキニアラス西南ニ模様ニ依而必ス有爲ニ禍心包藏候ニハ相違無御坐候就而兼而御買上相成候彼社官林代價御下ケ渡ニ義御見合有之度自ラ御勘考も有之事与信用候得共此度林有造其邊盡力ニ爲出東京候哉ニ被察候付爲念申上置候即今ハ西南變動

御征討ニ付莫大ニ費用相懸候事ニ衆目ニ所視ニ候得テ假令御約束有之候  
而も之ヲ延スニハ十分ニ辭柄も有之事与存候該縣ニおひて假令相叛候而  
も何事も成し得可申哉海路ニ便ナク器械ナク唯兒戯たる而已ニ候得共是  
非注意テ致置不申候而ハ相濟不申尤少々たりとも金ヲ渡候事ニ甚拙策ニ  
御坐候貢納金も立志社ニ預ケ有之趣故小池伊集院ニ密々申遣候含ニ有之  
候此旨用向迄艸々如此御坐候拜具

四月一日

利通

大隈 重 信 殿

【解説】當時高知ノ立志社員林有造大江卓等ハ西南ノ騷亂ニ呼  
應シテ兵ヲ擧ケントシ或ハ京攝ノ間ニ在リテ形勢ヲ探リ或ハ  
軍用金ノ調達ト兵器彈藥ノ購入ニ盡力セリ利通ハ夙ニ高知縣  
ノ動靜ニ注意シ特ニ立志社員ノ行動ヲ内偵セシメタルカ會々  
林ノ上京シテ政府ニテ買上タル山林ノ代價下ケ渡シ運動ヲ爲

サントスルヲ知ルヤ豫メ大隈大藏卿ニ注意シ軍費多端ノ故ヲ  
以テ下渡シヲ延期スルヲ得策トシタルナリ書中小池ハ高知縣  
令渡邊國武伊集院ハ參事兼善ナリ

(岩倉家文書)

【参考】岩倉公覺書 明治十年四月八日

四月八日土方西京ニ出張ニ付委託ニ件々覺書

- 一 従前成規ニヨリ招募兵云々之事
- 一 此際一般疑惑ヲ生シ大小事アル者ト見認メ嚴重警戒ノヲ
- 一 舊各藩其藩情ニヨリ出張ヲ争フ之事
- 一 招募ノ命ニ從ヒ表裏ニ情態深可注意事
- 一 器械彈藥受領ニ上反覆云々密話探偵之事
- 一 招募壯兵舊諸藩混合編制云々成否如何之事
- 一 米澤舊藩士千坂池田等内話及廣嶋舊藩士辻船越等同斷之事
- 一 中西國舊藩ヨリ在職ニ者及非職ニ者モ人望アル者宜敷御採用有

之強藩ヨリシテ募ラハ凡因州備前松代大垣長州大村等類歟

但シ肥前ニ山口楠田兼テ出張同藩士ニ處如何歟

一高知縣事情尤大事決テ不可輕侮者アリ則土方ヨリ御聞アルヘシ

一外國人内談器械彈藥船云々

一金權立志社ニアリ既ニ收納金貳十萬圓云々

一林有造東京ニ歸來山林代金云々

一爲換方ヨリ四萬圓計融通彈藥云々

一政府士族兵ヲ募ラハ云々

一西郷ニ與セサル云々信スヘシト雖モ石室モ亦類焼ヲ不免ル者アリ深ク御注意是祈

一因州士族密談返答振リ其外尋問之輩ヘ同斷返答云々

一舊知事及佐々木中島等御差下シ如何

一暗殺論云々

此他土方言上ト別紙探偵書トニ讓ル

外ニ

彼レヲシテ疑惑ヲ懷カシムル尤重事件ニ付注意云々

一四國鎮臺尤御注意御大事ト愚考ス其故ヲ追々繰出シ兵員僅ニナルヘシ而シテ器械彈藥充分ノ備ヘアルヘシ若一朝之ヲ奪ハル、時ハ其害不少ニ付大兵ヲ入ル、歟其事勿ンハ器械彈藥當用ニ外大坂ニ繰込ム方可然歟

一今日之景況ニテハ東西京大坂ハ根本ニ地故御大事云々尤御同意別シテ京坂根軸ニ地充分御注意企望

一福岡小倉分營殊ニ嚴戒警備シ此後各處草賊蜂起ニ節ハ速ニ鎮壓急務ト存候或ハ又無辜ニ人民難ニ罹ルヲ御憂慮被爲在ルノ 聖意ヲ以テ樞要ニ地ニ鎮撫使ヲ被置候テモ可然歟其故ハ討賊ノ官軍ヲシテ後顧ノ念ナカラシムルヲ要ス

一 嶋津珍彦兄弟并内田上京此事件ニ付奈良原深ク苦心尤ト存候同人  
 上京之上大久保へ厚ク示談可有之事ト存候  
 一 細川護久并家令鬼塚等へ一策云々

但シ救助筋之義ニ付云々申越サレタリ

一 山岡云々杉宮内少輔ヨリ御内話致承知候勝云々

一 武官御増員云々

一 高知縣探偵書

壹紙

一 船越申出

壹紙

一 佐野建言

壹紙

一四三八 伊藤博文への書翰 明治十年四月二日

(伊藤公爵家藏)

【按】八代口官軍有利ノ報告ヲ得タルヲ以テ本日談議ノコトハ  
 暫ラク猶豫スヘキ旨ヲ通シタルモノナリ

過刻八代口報知ニ依レハ大分相進ミ候模様一機を轉シ候近來之吉報与被  
 存候就而今日御談之事件ハ悉皆見合セ猶此上之都合次第与取究候方宜ク  
 与愚考仕候一報を以容易ニ見込を變ニハ無之候得共川尻之病院を移し候  
 賊之景況ニ候得ハ大ニ氣勢を挫き候ニテ無相違官軍進發已來適切ニ彼レ  
 之膽を寒からしめ候之初之事ニ可有之實之苦慮ニ餘御互ニ入念ニ論ニ  
 涉りたる義ニ候得共不圖今晚之報を得可賀之至ニ候不得止ニ出ル与ハ申  
 スモノ、華士族ニ依頼之事甚不好譯 朝威を幾許可落之後患を殘候之  
 明着タル事ニ御坐候此上ハ再報を待少も不遲候間別ニ御異存無御坐候ハ  
 、明朝木戸氏に御談被下度自ら出頭之含ニ候得共其内艸々如此御坐候書  
 外拜表ニ讓リ候拜具

四月二日

利通

伊藤賢臺下

【解説】是日利通ハ伊藤ト會見シ肥後ノ戰況ヲ憂ヘ種々ノ方策



ヲ議セリ會々八代口官軍(黒田參軍ノ指揮スル背面軍ニテ高島大佐ノ別働第二山田少將ノ別働第三川路少將ノ別働第四旅團ヨリ成ル)大ニ進出シテ川尻ヲ衝カントスルノ報達シタルナリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月二日

(大久保家藏)

貴翰奉拜誦如尊論八代口ニ一報近來快報御同慶ニ至ニ奉存候就ハ今夕御談合ニ事件ハ悉皆見合セ尙此上ニ都合次第云々敬承仕候處過刻已ニ鳥尾へも大略ハ申聞且木戸も尙亦細議承知仕候ニ付ハ兎角今晚引戻シハ出來不申明朝木戸へ面會尙篤と相談可仕乍去丸ニ打止メ候事ハ如何可有之歟病院を他へ轉候とも木留鳥ニ巢口戰爭ニ景況ハ未タ四五日間ニ落着と申勢ハ不相見様今日歸府ニ者ハ承知仕候兎角明朝拜青尙尊慮相伺候様可仕不取敢拜答勿々拜具

四月二日夜

博文

大久保 盟臺

拜答密啓

一四三九 伊藤博文への書翰 明治十年四月三日

(伊藤公爵家藏)

【按】壯兵徵集ノ議ニ付キ木戸ヲ勸説セシメタルモノナリ

唯今歸宿候處別紙木戸氏書面揃置有之一讀候處壯兵招募論頗る不満足ニ様相見得候就ハ明朝ハ必御面會篤与御辯説有之度中村書記官西京ニ遣候も右ニ旨趣ニ異論相立候時ハ條公も御決定被成兼候半与懸念仕候如此國家大事ニ際各好ニシ与ニ赤心意を述候事か却テ行違ひと相成候様ニハ甚以外ニ次第ニ御坐候小子ニおひてハ何を御究相成候も毫頭も遺念ハ無御坐候間明朝ニ御都合ニ木戸氏落着相付候方ニ御治定有之方可然与愚考仕候此段艸々如此御坐候何を明朝拜表御談可申上候拜具

四月三日

利通

伊藤賢臺

【解説】熊本城ノ危機旦夕ニ迫ルモ官軍ハ未タ之ニ連絡スル能ハサルヲ焦慮シ更ニ増援ノ爲メ各府縣ヨリ壯兵ヲ徵集シテ戦地ニ派遣セントスルノ議アリ利通モ亦之ニ賛同シ大書記官中村弘毅ヲ京都ニ赴カシメ裁決ヲ請ハシメントセシカ木戸顧問ハ是日書ヲ利通ニ贈リ反對ノ意見ヲ述フルアリ利通ハ甚タ之ヲ遺憾トシ伊藤ヲシテ一應木戸ヲ説得セシメタルナリ

【参考】其一伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月四日 (大久保家藏)

大久保明府密展

博文

別紙木戸に到來乍失敬御先ニ披閱仕候書中之儀ニ付御高按も御坐候へハ明朝返答可申遣候ニ付御示可被下候土州舊近衛兵之ものハ鳥尾へ既ニ申聞置候處尙亦別紙ニ申來候ニ付尾崎を以傳言仕置候勿々拜具頓首

四月四日

【参考】其二伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月四日 (大久保家藏)

大久保殿呈

博文

今朝木戸へ面會壯兵募集云々之儀熟談今午十二字頃迄之汽車よて中村書記官も同伴入京御沙汰書相携歸坂爲仕候筈ニ御座候右一條ニ付ハ段々御相談不申上候ハ不相成處唯今罷出兼候ニ付後刻參謁可仕候鳥尾見込よて熊城守期も已ニ相定候ニ付其前成丈ケ兵ヲ繰込聲援ニ相成候様仕度ニ付ハ處々相殘居候兵致不殘繰込且山口縣舊近衛兵千四五百人致至急徵集仕度別紙電報縣令へ御指令相成候へハ大ニ都合宜布旨申出候京師へハ木戸相頼條公へ申上候當地よて片時も差急候方可然旨ニ付御同意ニ御座候へハ書記官へ御申付早速通信御取計奉願候尙此儀ニ付ハ小官方へ隨行罷在候梶山鼎介と申もの縣下迄差越候筈ニ御座候余ハ讓御面晤勿々拜具

四月四日

【参考】其三岩倉公より大久保伊藤への書翰 明治十年四月四日 (大久保家藏)  
 前略賊意外強銳猖獗ヲ極メタリ殊ニ昨今ノ電報ニテハ一入御苦慮ト  
 不堪想像也併御全勝ハ素リ確信ノ事ニ候得共當賊最後ノ死戦ニ當ル  
 ヤ實ニ大兵ヲ要セサルヲ得ス西郷從道ニも不一方苦慮今日ハ省中ニ  
 初ヨリ關係渡邊中佐差立貴卿と鳥尾と十分見込ノ旨内談此上緩急  
 誤リナキ様可致との事ニ候寔ニ御大事ノ場合と存候ニ付一段御盡力  
 ノ程令懇禱候小生是迄可及御文通ニ候筈ニ處病氣ニハ有之且御繁務  
 中却る御面働ト差扣候事ニ候早々以上

四月四日

具 視

大久保殿

伊藤殿

一四四〇 伊藤博文への書翰

明治十年四月四日

(伊藤公爵家藏)

【按】御親征ニ關スル議ニ付キ答書シタルモノナリ

別封御廻一讀仕候御親征云々ニ一條今後模様ニ依るゝ御出馬も可被爲在  
 程ニ御憤發を兼る御誘導有之邊ニおひてハ少も意存無御坐候此等之事も  
 鳥尾出張候得ゝ其上ニ目的相立候事与愚考仕候此旨拜答迄艸々拜具

四月四日

利 通

伊藤賢臺下

【解説】當時戦況ヲ顧慮シテ壯兵ヲ徵集スルト共ニ一方亦士氣  
 ヲ振興センカ爲メニ 天皇ノ親征ヲ奏請シ奉ラントスルノ議  
 アリシナリ又鳥尾出張云々トハ中將鳥尾小彌太ハ大坂留守本  
 營ノ軍務主任タリシカ將來ノ作戦ヲ畫策シ兼テ出征軍ノ情況  
 ヲ視察スルノ要務ヲ帯ヒテ戦地ニ出張セントシタルナリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月四日

(大久保家藏)

大久保殿御直拆

博文

唯今鳥尾へ面會仕候處戰地之事情懸隔リ細ニ不相分候ニ付ハ銃器引換等之事只將來之見込等何分面議之上不盡候ハ不安心之廉々不  
 少依テ明日出帆福岡へ上陸戰地迄罷越一周日間ニ歸坂仕候様致度と  
 申事ニ御坐候壯兵募集等之事ハ滋野大佐へ申含置表向代理ハ四條少  
 將へ相托置度由一周日間位ハ爲差御用向も有之間布且同人罷越諸將  
 官と面談仕置候へハ後來ニ都合も可然歟と奉存候處如何御高案ニ御  
 座候哉尊慮相伺度御同意ニ御座候へハ右ニ趣電報よて太政大臣へ御  
 申立相成候様仕度同人行在所陸軍事務取扱被仰付有之候ニ付ハ御  
 用有之戰地へ被差越候段御沙汰書記官へ是亦御申付奉願候拜具

四月四日

一四四一 伊藤博文への書翰 明治十年四月五日

(伊藤公爵家藏)

【按】壯兵徵集ノコト及ヒ機務ニ付キ述ヘタルモノナリ

過刻御談申上候因州云々之事到底一縣ニ不止今後之處分上ニ付大ニ困難  
 を生可申既ニ東京ニ亦も茨木縣爾餘之處も有之且今日迄願立候分別紙之  
 通リニ有之候間爲御心得差上候是等之内も憂國之衷情ニ出候もの而已  
 にも有之ましく誤得共其區別を立候事ハ甚六の舖候鳥尾之報知次第ニ亦  
 畢竟一般之徵集ニ致候外有之ましく候其邊猶又御含置可被下候  
 西京の政府引纏め之事京大坂ノ事ナリ條公ニも御尊有之趣ニ承候即今之處ニ亦  
 鳥尾も出張候得ハ是非當地に不在候ハ不都合与申々との事も無御坐候  
 付如何様共可然与愚考仕候此段も序ニ申上置候  
 別紙河村よて電報到來候間供御一覽候右艸々如此拜白

四月五日

利通

伊藤賢臺

【解説】壯兵募集ハ木戸ノ反對アリシモ遂ニ召集ニ決シタリ而

シテ是日利通ハ伊藤ト因州ヨリ巡查ヲ徵集スヘク協議セシカ  
其際宜シク一縣ニ偏セス各府縣ヨリ徵集セサル可カラサル旨  
ヲ述ヘタルナリ「西京ハ政府引纏め云々トハ當時行在所ハ京都  
ニ在リシモ大坂ノ本營ニ利通木戸伊藤等出張シテ樞機ヲ處理  
セシカ總テ京都ニ引纏ムヘシトノ議アリ三條公之ヲ希望セラ  
レタルコトニテ幾何モナク閣臣等大坂ヲ引揚クルニ至レリ

一四四二 伊藤博文への書翰 明治十年四月五日

(伊藤公爵家藏)

【按】因州ヨリ巡查徵集ノコトニ付キ答ヘタルモノナリ  
敬讀別紙一覽仕候巡查論外ニ異存も無御坐候得共獨因州ノミニ止らざる  
義ニ候得去其取捨甚難物与愚考仕候既ニ東京へも自費ニ而士族出張連判  
ニ而實地ハ向度請願之徒も有之候趣ニ候得ハ一縣而已を偏信して差許候  
事ニも參兼可申候到底此御處分ハ東西一視ニ出不申候而去其間ニ必又々

不平論を起候様之故障も可有之候ニ付一般之目的上ハ相決申度事ニ御坐  
候別紙も有之通後患も考るゝから又自ら城のミを守詰も不出來与  
之義も尤之事与同意仕候猶追時拜趨篤与御直話可申上候也

四月五日

利通

伊藤賢臺下

一四四三 伊藤博文への書翰 明治十年四月カ

(伊藤公爵家藏)

【按】因州ヨリ巡查徵集ノコトニ付キ述ヘタルモノナリ  
因州士族を三四百人巡查招募之義云々之内情有之候付而去一縣丈之折合  
ハ宜可有之候得共今日之形情一般を通視不致候而ハ偏頗之處置ハ難相調  
義ニ可有之既ニ於東京自費を以出張一味連判實地ニ向ヒ義務を盡度惴願  
候徒も有之且米澤宮城茨木縣下等之士族も此節去爲 朝廷干戈之地ニ立  
相盡度与之模様ニ候由其餘同様之士族不少与想像以々候然るニ河田を

警視廳御用掛士族を巡查ニして戦地ニ繰出候時を必定前條ニ徒類ニ願出候ニハ無相違其節ニ臨ミ取捨ハ我ニあり可取ハ取リ不可用エ用エ及与斷然他を顧及候得ハ相濟可申候乍去今日士族を用エル与云旨趣則彼之方  
向を一定セしめ我針路ニ引付んと之方略ニ候處他ニ採用されざる徒ハ一  
層之不平を生實ニ扱ヒ苦シキ趣を顯シし可申候鳥尾中將實地目撃之義右  
邊之目的を確定致度与之事ニ可有之候得ハ此一報知を待不達事ニハ無之  
哉要目也電報ニ相違候得ハ三四日ニハ必相分可申候熊本城落去之否ニ  
依一般之人心ニ關係可仕候得共之迄ハ決而差支有之ましく又萬々一城  
中異變有之候而も今日ニ相成候而ハ大ニ前日与ハ相違も可有之候子細ハ  
背後之軍川尻近傍ニ進ミぬれハ今兩三日を見合して不遲与之旨趣不可侮  
之賊与ハ申もの、官軍ハ一日々々ニ必勝之地を占メ賊ハ追々窘蹙之形況  
ニ候得ハ始終之勝算ハ既ニ明著なる義与被存候乍併一時之蹉跌ハあし与  
之可あらざるハ勿論之事ニ候唯今安危興敗不日ニ迫ル与之極點ニ陥るゝ

り与ハ難申候

【解説】本書ハ後文ヲ缺キ且ツ月日宛名ヲ逸スルモ其ノ内容前  
書ニ同シ案スルニ當時伊藤ニ贈レルモノナランカ

一四四四 伊藤博文への書翰 明治十年四月七日

(伊藤公爵家藏)

【按】東伏見宮(嘉彰親王)出征願ニ關スル三條公ヨリノ書ヲ廻送  
シタルモノナリ

別紙條公之御書相達候間開封之上御廻申上候宮出軍御願之義別ニ異見  
も無御坐候北阪之故ヲ以於東京御差留有之タル事ニ候得共右大臣殿并ニ  
西郷中將等ハ一應御問越之上からてハ直ニ御決答ハ出来ましく愈於彼地  
差支無之与之事候得去伏見宮之例ニ慣ヒ思食ヲ以被命候得ハ何与可申上  
事も無之猶御高慮如何相伺候此旨艸々拜白

四月七日

利通

伊藤賢臺下

一四四五 林友幸への書翰 明治十年四月七日

(林伯爵藏)

【按】黒田參軍ヨリ發セシ増援隊要求ノ電報ヲ廻送シ猶ホ巡查隊ヲ急行セシムヘキ旨ヲ依頼シタルモノナリ

昨日發黒田參軍電報

兼而申進置候通我背後ニ邊見十郎太別府新助淵邊等歸縣ノ上召募ノ人數千五百人已ニ八代口ニ進ミテ昨日より玖摩川ニ據リテ交戦相成居ル然ルニ廣漠ノ地多數ノ兵ヲ要スルニ付何分此口ニ充ル兵隊乏ク漸ク一大隊計リ當地ニ豫備隊ヲ以テ争戦中ナリ故ニ兵隊ヲ差向ノ儀ハ至急相成度候

昨日中ニハ山路引率ニ二大隊既ニ着ニ筈与存候得共巡查五百人可成速ニ相違候様仕度候直ニ肥後海へ相廻候様都合出來候得ハ無此上候得共其儀

不相調候ハ、長崎よ至急出帆相成候様御通知被成置度候高山警部へも差急候様申聞置候得共何分船ニ用意第一ニ付自ら御疎ハ無之与存候得共電報ニ趣も有之付爲念此段艸々如此候也

四月七日

利通

林 少 輔殿

再伸電報候間傳播不致様有之度候

【解説】參軍黒田清隆ハ是月朔日宇土ヲ占領シ四日牙營ヲ移セシカ交戦ノ地域頗ル廣漠ニシテ多數ノ兵ヲ要スルニ反シ賊ハ鹿兒島ヨリ援兵ヲ得八代口ニ進ムノ情報ヲ得タルヲ以テ援兵ノ急派ヲ要求シタルナリ「山地引率ニ二大隊」云々トハ陸軍中佐山地元治ヲシテ二箇大隊及ヒ砲一隊ヲ率ヒ肥後海ヨリ突入シテ賊ノ本據タル川尻ヲ衝カシメタルコトニテ此ノ隊ハ前月三十日大坂ヲ發シ長崎ニ向ヒタリキ

一四四六 伊藤博文への書翰 明治十年四月八日

(伊藤公爵家藏)

【按】山口縣近衛兵招募費調達ノコトニ付キ答書シタルモノナリ

山口縣近衛兵就招集入費金五萬圓差廻方之義則參謀部へ問合セ相調不申候由何を相送不申候ハ相濟ましく乍去馬關ニおひて三井組爲替取組出來候半歟与存候付伊東方へも早速尋越候手筈ニ申聞置候相分次第早速爲御知可申上候此旨拜復如此候也

四月八日

利通

伊藤 殿

一四四七 伊藤博文への書翰 明治十年四月九日

(伊藤公爵家藏)

【按】池田德潤ノコトニ付キ了解ヲ求メタルモノナリ

過刻一寸御談申上候池田德潤云々之事他ハ相咄不申吳候様吳々承候間

左様御承知可被下候子細ハ川田先輩之事も有之且此度之義其趣意柄ニおひてハ誠心を出候事ハ無相違然ルニ暗ニ同人を讒謗候様行違候ハ甚不本意ニ付分る相含くれ与之事ニ候此旨不及申上与存候得共爲念如此候也

四月九日

利通

伊藤 高臺下

【解説】池田德潤ハ内務三等屬川田ハ元老院議官河田景與ナリ

【参考】池田德潤より大久保への書翰 明治十年四月廿一日

(大久保家藏)

拜啓別紙只今入手仕候付呈御内覽候尤モ十六日認ノ書面故今日ニ至リテハ大ニ議論モ相變リ居候事ト存候得共此度河田景與出立願ノ義ハ鳥取縣近頃ノ實狀ヲ不知ヨリ少シク失策仕候義与愚考罷在候依テ河田ニ不應モノ一概西郷派ニモ有之間布哉と想像仕候某々等表面ノ説ハ殊更立派ニテ一言モ無之云々ト申ス輩成程心底ハ不被計候得共



或ハ表裏同一ノ者モ可有之 徳潤ハ亦一概河田ノ説ニモ從信難仕故ニ  
河田ハ余程困却候事ト察シ候何シロ最早格別御案思候儀ハ有之間敷  
先ツ此段内申仕候也恐々頓首

十年四月廿一日午後四時卅分

池田 徳潤

大久保内務卿閣下

尙々別紙御覽後御下戻奉願度候

一四四八 大隈重信への書翰

明治十年四月十日

(大隈侯爵家藏)

益々御安固奉敬賀候陳ハ熊本縣令心得石井大書記官より該縣燒失之人民  
救助方法見込相立此節伺出候仍る林少輔吉原大書記官等及會議大體之目  
的を立其方法等ニ至テハ實際ニ就キ取究相伺候様無之ハ到底徒法ニ屬  
リ

し可申子細ハ燒失之戸數も未判然不相分又此上八代川尻等も及燒失候も  
難圖事ニ有之且上中下之等級を分チ候ニも實地ニ涉リ不申候ニも想像難  
相付事ニ候間悉皆救助ニ費し候金額凡百五十萬圓与御内定有之候得々其  
上ニハ決亦上り申ましく幸よして八代川尻等今後兵火ニ罹リ不申候得ハ  
其内ニも相濟可申候少々過當与御考も可有之候得共今度熊本之變ハ尋常  
一樣之見ヲ以處分ハ甚六る舖此際恩恵を施し至仁之御旨趣貫徹候様無之  
候亦ハ民心を拾收候事ハ相調ましく候間前條之金員を御振向有之度致希  
望候若別ニ御高慮も有之候ハ、被示聞度林吉原ニも右御許可を得候亦も  
今日之際漫用候様之儀ハ決亦無之候付是非右之員數ハ無間違候様御協議  
申上吳与之趣細ニ承候右申上度如此候也

四月十日

利通

大隈大藏卿殿

【解説】内務權大書記官石井省一郎ハ時ニ高瀬ニ在リテ熊本縣

令ノ事務ヲ執リ專ラ兵燹罹災者ノ調査ヲ爲シ之ヲ内務卿ニ報告ス依リテ利通ハ林友幸吉原重俊等ノ意見ヲモ徴シ救恤ノ概算額ヲ百五十萬圓ト定メテ大藏卿ニ要求シタルナリ

【参考】石井省一郎より大久保への書翰 明治十年四月二日 (大久保家藏)

寸楮恭呈仕候陳ハ先般來續テ御配慮ニ至奉恐察候於當地小官事命を奉して鞅掌罷在候間乍憚御安慮可被成下候扱左之件々上申可仕爲メ今般増子三等屬御手元迄差立候間諸事同人ハ御聞取可被成下候委細ハ同人口頭申讓候勿々再拜

明治十年四月二日

石井省一郎

内務卿閣下

増子三等屬へ申合候件々  
私出張以來縣廳之情況及民情

荒尾郷一揆暴發取鎮之始末

戦地之景況并賊情之概略

御救助金額之伺

内務省奏任官一名并巡查貳百名豊後日向邊取締之爲メ出張被命之  
之如何哉之事

右詳細書面ニ相認呈上可仕筈ニ御座候處何分寸隙無御座候付委細増子ハ申合候間可然御聞取可被成下候勿々再拜

別呈當熊本縣廳も高瀬表ハ轉移追々救助其他之事等銳意勉強罷在候付吳々も御放念可被成下候然ルニ屬官之向も従前百四五十名御座候處今以賊地潜伏等ニ漸即今迄六十五六名歸廳仕候位ニ其内事務之能ク辨する者ハ僅々ハ事ニ且七等出仕桑原ハ御承知被爲在候通至亦好人物ニハ御座候得共事變ニ處するの才力無ク事務ニも長し

より申難ク御座候付熊本城迄至り候場合ニ相成候ハ、縣治一層之要務を生し候ハ必然之勢ニ付小關書記官死去跡も欠員旁事務ニ長しふる書記官御撰擧之上御差下し相成内藏兩省之内ニ事務熟練之屬官四五名程當縣廳へ轉任右之書記官与同行仕候ハ、至極都合よろしく様愚慮仕候此段御熟慮奉仰候勿々再拜

四月二日

省 一 郎

内務 卿閣下

追テ御救助金額之儀ハ佐賀之例ニ比較仕候得ハ餘程之増額ニ相成候事故何を即今非常之御出費ニ被爲在候事ニ御座候付大藏省之御都合ニ依リ佐賀之例ニ可取計旨御沙汰御座候ハ、決テ行ヒざるを申譯も無御座候間御含迄申上置候乍併熊本城下丈ハ少々右佐賀之例カも御増額奉仰候勿々拜首

一四四九 伊藤博文への書翰 明治十年四月十日

(伊藤公爵家藏)

【按】川村參軍ヨリ達セシ電報ヲ廻送シ出兵及ヒ募兵ニ關シ述ヘタルモノナリ

別紙秘密電報今晚河村よりに到來ニ付先御内覽ニ入を候何れ今日中明朝迄ニハ鳥尾よりに報知可有之候間照會之上目的御決定ニ相成度兵員ハ昨日西郷之電報ニモ今五六隊ハ出兵之都合既ニ千五百人ハ今朝神戸着港之趣ニ候續テ和歌山山口之募兵も相整可申候間別段ニ致様も無之其邊も鳥尾之實地目撃迄跡壯兵募集等之事も可申參筈与愚考候河村電報之趣ニハ鳥尾之方略与凡同様与被察候依テ考フルニ鳥尾之論ニ何分与も相究り可申昨晩高崎侍從番長も着面會猶委曲承候得共戰ハ瞬時ニ變換候故昨夜電報參候上ハ高崎之話ハ何も不用ニ屬し候陸奥上京ハ何事ニ候や和歌山縣募集之事ニ付餘計之喙ヲ容候ハと不都合与被存候三浦も氣遣居候趣承候必御面會可有之候間若右様之口氣も有之候ハ、御挫置被成候方

可然候付序ニ申上置候未着ハ有之ましく候  
前條之趣ニ付出兵ニ可成速ニ運輸相成候様且和歌山山口之方差急候様御  
賢慮ヲ以滋野へハ御含メ相成候様希望仕候疎ハ無之与存候得共爲念申上  
候

別紙電報ハ御覽濟御返し可被下候先何方へも出し不申方宜ク存候若鳥尾  
ハ參候ハ、御知せ被下度奉願候

右艸々如此候也

四月十日

利通

伊藤賢臺下

【解説】川村純義ヨリノ電報ハ戰略及ヒ援兵ニ關セシモノニテ  
當時各地ヨリ招募セシ兵ハ續々出兵セシナリ陸奥ハ元老院幹  
事宗光ニテ當時政府ニ反對ノ態度アリシヲ以テ利通ハ陸奥カ  
出身地タル和歌山縣ノ募兵ニ容喙センコトヲ憂ヒ豫メ伊藤ニ

注意シタルナリ三浦ハ安ナリ

【参考】西郷從道より大久保への書翰明治十年四月四日

(大久保家藏)

戦地之景狀近日電報之趣ニハ大ニ戦線ヲ進ムルト雖モ賊兵倍必死  
勇闘且尙ホ募兵ノ聞ヘモ有之實ニ一大事之場合ニ御座候兵員繰出方  
并彈藥等之儀ニ付參軍ハ屢々申來リ候趣有之於當地も已ニ其心組ニ  
テ彈藥購求之儀ハ已ニ諸方へ着手致置候其内支那地方ニテ買得之分  
ハ不日長崎表着之筈ニ付御安意可被成下且又當地之儀ハ目下平穩聊  
も異條無之候得共民政之巧拙ニ依リ此先キ戦地之模様次第如何様ニ  
變事顯出スルモ難計ニ付右大臣公始メ日夜不淺配慮有之事ニ御座候  
本日出帆之廣島丸ニテ陸軍中佐渡邊央其地へ差出シ下官進退并兵員  
繰出方及ヒ此先キ之見込等委細同人へ申合置候間着之上親ク御聞取  
被下尙貴官御所見之處も御腹臆ナク同人マテ御傳被下度同人ハ當時  
陸軍卿官房々長代理相勤居候付何様ニ大事御洩シ相成候共聊不都合

無之候間御掛念ナク御談相成度候右要旨取束進呈如此御座候不盡

四月四日

陸軍中將西郷從道

參議大久保利通殿

追ふ渡邊中佐儀ハ於當地不可欠必用之者ニ付其地之御用濟次第必  
ス歸京之儀鳥尾中將へも及書通置候得共尙於貴官も御含被下何様  
之御使ヒ口有之共是非歸京爲致度此段添ふ申進候也

一四五〇 川村正平への書翰 明治十年四月十日

(川村花菱氏藏)

【按】書記官進退并ニ東京へ返電ニ付キ指示セシナリ

御書面致披見候扱書記官明日十字扶桑丸より歸度与之事候ハ、任其意可  
然候付御差立可被成候御出船御都合旁宜ク御計可被下候

○西郷之事東京へ返報は明日小子歸候上差出可申候其前出をニ及不申候  
右回答迄如此候也

十日夜

利通

正平様

【解説】川村ハ利通ノ秘書當時利通ハ堺ニ税所縣令ヲ訪問セリ  
「小子歸候上」云々トアルハ堺ヨリ大坂へ歸ルノ意ニシテ川口白  
由亭ニ滞宿中ナリシナリ

一四五二 伊藤博文への書翰 明治十年四月十一日

(伊藤公爵家藏)

【按】黒田ヨリノ電報ヲ返送シ増援隊ノ一部ヲ背面ニ向ハシム  
ヘク鳥尾ニ交渉方ヲ申入レタルモノナリ

黒田參軍電報御差廻被下一覽則返上仕候近々進撃之戰略城中之形情等詳  
悉いたし初る安心御同慶之至ニ候昨今廻船之兵幾分是是非背後之方へ差  
向度ものニ御坐候鳥尾ハ今一應明朝ニも申遣候ハハハ、御勘考被成  
置可被下候貴答旁如此拜具

四月十一日

利通

伊藤高臺下

【解説】黒田參軍ヨリノ電報トハ新ニ増遣セシ中佐山地元治ノ部隊ヲ背面軍ニ加ヘシメンコトヲ希望セシモノニテ鳥尾ハ此ノ部隊ヲ以テ川尻ヲ衝カシメントシタルナリ

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十一日

(大久保家藏)

大久保殿

博文

御直拆

別紙黒田參軍ハ電報九通寫唯今神戸分局ハ差越申候ニ付入貴覽候城中之形勢并ニ背後攻撃ニ手段等稍其詳細を得聊愁眉汝開き申候いづれ從西京御回達ニハ可相成候へ共差急入貴覽度御一覽後跡よて御返却奉願上候從鳥尾今日之返答到來併る贈呈仕候爲其勿々頓首再拜

四月十一日

一四五二 伊藤博文への書翰

明治十年四月十二日

(伊藤公爵家藏)

【按】各府縣へノ内達書案ヲ送り加筆ヲ求メタルモノナリ

別紙府縣ハ内達致度城中之事ハ即今衆庶危疑する處ニハ大ニ人心之方向ニ關可申ニ付速ニ内示致候方可然餘りくじしからぬ様案ヲ爲作候得共猶御氣付も有之候ハ、御加筆可被下候此旨艸々如此候也

四月十二日

利通

伊藤賢臺下

【参考】伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十二日

(大久保家藏)

大久保殿

博文

拜答

内諭書御示一覽仕候處御草案通ふて至極宣布様奉存候何も汚啄ヲ容ル、所無之則返上仕候間速ニ御發行相成度候也拜答

卷四十 (明治十年四月)

百三十五

四月十二日

一四五三 伊藤博文への書翰 明治十年四月十二日

（伊藤公爵家藏）

【按】大分縣ヨリ護送セシ捕虜ノ處置ニ付キ議シタルモノナリ  
於大分致捕縛候賊之專使五人護送今日當港に到着彼縣目今内外多事警衛  
等差支候付大坂府ニテ請取護送之都合ニ取計吳候様申來候付當府へ請取  
候様相達東京に護送之儀ハ追テ可相達候付嚴重取締可致旨達置候就  
テ惣督宮も近々伺出之趣も有之候間先當府に其儘差置候方宜クハ有之  
ましくや此旨貴慮伺度如此候也

四月十二日

利通

伊藤賢臺

一四五四 伊藤博文への書翰 明治十年四月十三日

（伊藤公爵家藏）

【按】黒田參軍ヨリ要求セシ背面軍増援ノ議ニ付キ答書シタル  
モノナリ

背後廻兵之一條ニ付云々高慮之趣被示開拜承仕候今朝條公の電報到來及  
勘考候得共既ニ鳥尾中將ハ兩度も往復仕候末之事此上外ニ致様も無御坐  
候最寸兵を動し候權利無之候得ハ何様評議を盡候も無益与存居候次  
第二御坐候如尊諭背後之軍此機ニ臨ミ候テ若一蹉躓有之ハ遺憾不可言  
事ニ御坐候山口縣に電報御往復ハ決テ異存無御坐候間先何程招募相調候  
哉否ヲ御問合セ有之候ハ如何可有之哉

東京新募巡查之事も尋越可申候

鳥尾の承知之返詞ニ候得テ必らま差出候事ニハ相違有之ましく信用仕居  
候得共爲念黒田へハ拙者ハ別段電報差出置候即今長州に新着兵四大隊有  
之鳥尾に懸合之上承知与之事候得共早速木ノ葉に其地ハ一人を差出サセ  
云々申遣候事急かれハ必誰ぞ差出可申与想像仕候差向之處ニおひてハ別

段不足と云ふるとよも有之ましく候得共進撃ニ從ひ戦之模様ニ依必ス兵ヲ要候事故申遣さる儀ニ可有之候既ニ御船邊も落し一舉賊窟ヲ撲滅せんとする際ニ兵之續かさるハ如何よも傍觀ニ堪へざる事ニ御坐候右御回答まで艸々如此御坐候也

四月十三日

利通

伊藤賢臺下

【解説】黒田參軍ノ牙營ヲ宇土ニ移スヤ適々高瀬ヨリ至リシ川村參軍ニ三千ノ増援兵ヲ得テ熊本城ト連絡セントスル意向ヲ語ル川村之レヲ山縣參軍ニ謀リ山縣ヨリ先鋒諸將ニ議セシモ諸將皆寡兵ニ苦シミ兵ヲ分ツノ餘力ナキ旨ヲ答フ是ニ於テ川村再ヒ宇土ニ往キ事情ヲ黒田ニ告ケシカハ黒田ハ書ヲ三條公及ヒ利通ニ贈リ増兵ヲ稟請セリ伊藤亦書ヲ利通ニ寄セ三條公ヨリ豫備兵派遣ノ命アルモ軍事當局者ノ不在ナルヲ以テ止ム

ヲ得ス山口縣へ打電シテ新募兵ノ派遣ヲ交渉スヘキコトヲ述フルトコロアリシナリ

【参考】其一伊藤博文より大久保への書翰明治十年四月十三日 (大久保家藏)

大久保參議殿

博文

御直

條公ハ電報豫備兵有之候得ハ可差出様評議可致云々被仰越候處參謀部へ及相談候共主宰之者即今不在之際適應之方略取極候事ハとても出来申間布且戦地へ申遣候も既ニ一往復之後ニ御座候へハ別ニ前答ニ替りたる妙策も有之間布と被察候處甚傍觀ニ不堪次第且ハ目下背後勝敗之機ニ臨誠ニ不可失之時乎て萬一兵數不足之故を以一跌不可復之禍ニ陥リ候様之事有之候ハ遺憾無窮事ニ御座候誠ニ山口縣へ電報よて新徵兵之事を問合せ相整次第爲繰込候様之手段ニても可仕歟御高案相伺度候尤鳥尾も一方之爲ニ全局之失敗ニ出候様之拙策



ハ萬々有之間布と信用仕候へ共憂慮之餘尊意相窺度爲其勿々拜具

四月十三日

【参考】其二黒田清隆より三條・大久保への書翰明治十年四月十三日(西南記傳)

高瀬口未熊本城への連絡も通せざるに付既に過日川村參軍申談正面高瀬口を轉し背後八代口を以て正面と致し度夫故高瀬口の兵を今少し當口へ繰入度旨山縣參軍及外旅團長等へ協議に及びし處別に異論は無之候得共官軍の死傷追々相嵩み最早兩口合計凡八千餘名に及へりと云ふ尤も高瀬口の戦兵僅に五千に過ぎず是に於て熟考するに賊は益々兵數を増加し既に吾の背後に出づる數も凡そ二千に餘れり又鹿兒島縣下には淵邊なるもの軍制總督とかの名義にて縣廳へ相詰盛に脅迫追々募兵の様子に有之に付最早此際各縣士族等を徵募相成巡査名義にても被附候か又は後備軍の名義にても被附候か何れか名義を被附少なくとも五千以上の兵を至急徵募相成高瀬八代兩口及鹿兒

島縣下迄繰入相成候外他事有之間敷と被考候實に國家の安危に關係する一大事の御場合篤く御評議相成度此段極密見込上申候也

四月十三日

參軍黒田清隆

太政大臣三條實美殿

内務卿 大久保利通殿

【参考】其三川村純義より大久保への書翰明治十年四月十四日 (大久保家藏)

前略御免陳去過日戦地實際ノ景況親敷目撃ニ次第御内報可仕候様敬承仕候扱兩路ノ軍配過日大略電報ニ申上候通り今日ニ至りてハ眞ノ機ヲ失セス背後ハ實力ヲ大ニ用ひ宇土口ヨリ進入セハ時日經過セス城中ノ連絡ヲ取り諸軍合一奏功近きニ可有之与兩路ノ地形等素々再三見聞ノ上植木口參軍并ニ諸將官にも遂懇談候得共眞ニ此機策ハヨキト大山少將等ニ發論も素々有之折角背後宇土ニ回兵ノ事過日八日ニ遂示談申候得共私論ニ涉り候者も有之此策不被行尤植木口ハ今

日ニ到リテハ賊固守防禦必死を極め一ノ保壘ヲ拔ケハ亦退テ壘を築  
キ我ハ不利ノ地ヲ攻撃賊ハ利地ニ據リ防禦ノ策ノミ故ニ始終烈戦ニ  
相成已ニ三月廿日迄ニ死傷七千餘ニ及ヘリ決テ植木ハ今日ハ我實力  
を用ユヘキ地ニ非ス虚勢を張り地を外ニ撰ヒ進軍せまんと奏功難カ  
ルヘシ則チ今大津ノ海道ニ出テ突入セハ植木ヨリ容易ク進入可仕与  
被存申候活策ノ略難被行大山等折角周旋も御坐候得共植木口ニコリ  
カタマリタル頑策由ニテ眞面目ノ兵略實ニ人ヲ失ヒ悲歎ニ至リニ御  
坐候昨今四大隊ノ新兵着大山等率ユル由ニ付是ハ充分ノ策も相立可  
申与被存申候下官ノ如キハ此度ハ戰場見物人と同様ニ餘ハ御推量  
可被下候將守土口ハ背後ノ決策植木口ニハ不被行處ハ守土口ノ兵  
ヲ以テ最早急進スル之外無之与黒田其外將官ノ議モ決シ十二日未明  
ハ進軍相成候處意外容易ク御船川尻川を渡リ御船ハ別ニ要嶮ノ地ナ  
レモ賊禦ク事能ハス永山彌一郎池ノ上四郎ナトノ率ユル兵ニシテ散

々敗走ス捕縛人モ拾九人程有之續テ進軍ノ機ヲ失セサル處吉凶相混  
シ別紙之如キ書面到來大ニ議論紛々起リ今此二大隊ヲ植木ニ回ス時  
ハ進軍ノ事守土口ニ於テ攻守ノ地ニシテ甚掛念仕候事も不少實ニコ  
マリ切リタル次第ニ付速ニ守土を發シ鳥尾にも遂面會右等輕卒ノ號  
令出さレル様可遂談判之積リニハ高瀬ニ昨日着候處最早鳥尾ハ投ケ  
文ニハ此地引取候後ナリ夫故守土口大ニ人氣を損し兵機を失ひ候様  
被思候是ハ此地ニハ惣督ハ御取消を相願ヒ先ツ都合よく相成已後右  
等之事無之様御盡力可被下候出先ノ兵機ハ惣督ハ御委任ニ相成候譯  
筋ニ付右等ノ 勅命アルヘキ道理ハ無御座候間御含置可被下候守土  
口ハ無疑不日ニ奏功之機顯レ可申候ソレヨリ諸軍合シテ追撃ノ策相  
立可申候過日甲佐を取り御舟を抜き候後ハ日州路も被塞豊後路ノ間  
ニ延岡ハ出ル間道アリ近日捕縛人ノ申口ニハ糧米を日州ノ方ニ向ケ  
手負人等差廻ス由ニテとても賊充分可守程ノ見込も無之術策盡きた

リト被思申候心ス賊軍不日ニ破ルヘシ亦賊地を替ヘ日州ニ歸リ根據  
 とナスカ鹿兒島ニ歸ルカ速ニ熊本城ノ連絡を取り候後ハ兵を鹿兒島  
 ニ分チ三大隊もアレハ充分ニ可有之与被存申候其節ハ縣令を急ニ御  
 差出シ有之様致度候鹿兒島ハ此際宮崎与一先二縣ニ分縣ナサレ御所  
 分相成候方御都合實際上可然カと被思申候是々御賢慮可被爲在候事  
 ニ付別段不申上候ソレカ先ツ鹿兒島縣ハ宮崎ニ被置候方所置ヤスク  
 被存是非都ノ城邊ハ日州ノ要所ニ付兵を出し置不申候亦々不相成所  
 ナリ一連絡後ハ最モ此機を失セルサヲ肝要与奉存候今朝宇土ヲ發船  
 着急キ亂毫勿々御推覽可被下候餘ハ後日ニ讓リ先ハ大略如此奉得尊  
 意候謹言

四月十四日

純 義拜上

大久保様

一四五五 伊藤博文への書翰 明治十年四月十五日

(伊藤公爵家藏)

【按】三條公ヨリ廻送セラレシ黒田清隆ノ電報ヲ回示シタルモ  
 ノナリ

黒田參軍方ニ電報唯今條公よリ到來差上候尤別ニ就御心配評議ニ上何分  
 御答振申上候様与之事ニ候別紙差上候間御勘考被下度何を明朝御直ニ御  
 談可申上如此事ハ決ニ他へ相響不申候様祈望仕候此旨艸々拜具

四月十五日

利 通

伊 藤 賢 臺

【解説】鳥尾小彌太ハ四月五日九州出張ヲ命セラレシカハ八代  
 ニ赴キ山地元治ノ増援隊ヲ高瀬口ニ向ハシメントス依リテ黒  
 田ヨリ不同意ナル旨ヲ三條公ニ打電シタルナリ伊藤ハ黒田ノ  
 電報ト利通ノ書ニ接スルヤ大ニ鳥尾ノ行動ヲ遺憾トシ山縣參  
 軍ニ打電シテ其ノ理由ヲ問ハントシタリ

【参考】其一伊藤博文より大久保への書翰明治十年四月十五日（大久保家蔵）

大久保殿

博文

内密

黒田參軍伺出之電報條公ヨリ御差越御轉示難有奉存候右電報之趣を以致勘考候へハ植木口中合鳥尾八代へ罷越山路等之隊を高瀬口へ可差廻手段と相見候處黒田と協議之上ニ無之ハ甚不都合と奉存候即今背後好機會ニ臨ミ居候際殊更右様之儀有之候ハ彼は煩念ニ不堪次第与奉存候試ニ山縣參軍へ左之通一報差出候ハ如何

背後之兵を分ツテ植木口へ廻スヲ鳥尾八代へ出張ノ上取計候趣右ハ如何御申談ニ有之候哉背後ハ即今城中ト連絡ヲ通スル好機會ニ臨ミ半ハ已ニ川尻ヲ渡リ賊地ニ進入ノ趣就テハ誠ニ危急ノ場合ト被察然ルニ尙ホ兵勢ノ不足ナル憂アルヲ聞ク此際其力ヲ削クハ如何甚懸念セリ實地ノ情懸隔ノ地ニテハ分明ナラス大略御一報

アラシコヲ乞

凡ソ右之大意よて一電光ヲ飛し候ハ如何御異存無之候へハ書記官  
御下命被下度爲其勿々拜具

四月十五日夜

【参考】其二黒田清隆より三條大久保への書翰明治十年四月十三日（西南記傳）

天皇陛下の勅命を以て戰地巡視の爲め鳥尾中將高瀬本營へ差遣す然るに當八代口 兼て出軍せし黒川大佐の率ゆる一旅團を更に高瀬の口へ轉すへき旨同人より直接に相達せり最も同人へ兼て特任の廉あるを以て斷然旅團へ相達するの事に之あり候抑征討總督の宮は今般征討軍事の惣務を委托されたる事と相考候處豈圖らんや 天皇陛下より特任ありて出張の旅團を進退せらるゝとは實に了解致し兼たり右様區々相成ては即今一大事の際内輪に不容易患害を醸成し迎も今般の御征討成功を奏するの期萬無覺束かと恐察す

四月十三日

參軍 黒田清隆

太政大臣 三條實美殿

内務卿 大久保利通殿

【参考】其三伊藤博文より大久保への書翰 明治十年四月十五日 (大久保家藏)

大久保殿

博文

御直拆

唯今歸宿仕候處別紙黒田參軍ヨリ大臣公に之電報寫神戸分局を差越  
始る植木口之賊徒遁逃之實跡を明ニスルヲ得御同慶之至依る不取  
敢入尊覽申候爲其勿々頓首再拜

四月十五日夜

一四五六 岩倉公への書翰 明治十年四月十六日

(岩倉家文書)

〔按〕十一日附公ノ書ニ答へ且ツ時務ニ付キ述へタルモノナリ

去ル十一日之御書相達謹讀仕候益御安祥被爲涉奉恐賀候西陲賊勢も意外  
之猖獗鎮定之捷報延引ニ付段々御配慮被爲在候數件被爲示聞趣逐一拜承  
仕候去ル十一日迄之間前後兩軍共格別之報知無御坐候官軍も自然勢力を  
失ひ候様之心持よて甚關心仕候次第ニ御坐候處背後之軍城中一大隊賊中  
を中斷して奥少佐宇土本營に來會せし一報よて雲霧を排り天日を仰ぐの  
ことき思を成申候此奮勇突進ハ大ニ軍機を轉スル之功不少自ら前後官軍  
連日奮戰將ニ其時至ル場合ニ無相違候得共爲ニ官軍之兵氣を憤勵せしめ  
候ハ歴然タルヲ与致想像候續り甲佐御船を攻取し川尻の架橋之報知頻ニ  
相達其情況を察するに容易ナル事無人之地を行り如し實ニ可怪次第ニ候  
得共賊之方ハ専ら植木木留之方ニ相用ひ後背ハ空虚之姿あらんと被存候  
此上ハ城中と聯絡を通する事ハ決り子細無之候然ハ最後之一戰ハ必植  
木木留之方ニ可有之歟与是ニハ莫大之死傷も可有之候得共不得止次第ニ  
御坐候兎も角賊勢ハ最早弓折レ矢盡キ候情態顯然ニ候間期せ及て撲滅

不可容疑候全局之勝敗上ニおひてハ利害得失判然ニ候得共唯懸念仕候事ハ城中之維持如何ンニ有ル而已ニ而若落去候時々實際ハ且ク置キ必諸方ニ影響を生し候事無相違候得共大ニ面倒を生可申於當方一同苦慮仕たる義ニ御坐候最戦地之實情將校之目的等皮相而已之事ハ相分候得共其真情ニ至ツテハ全不通ニ有之終ニ鳥尾中將實地目撃將校之目的も了知之上歸坂大ニ前途方向を定め可申与之事ニ有之候次第ニ御坐候最早今日ニ相成候而申上ニ不及候得共右様之情態迄ニ相成候義を爲御知申上候爲如此候

一熊本城萬一之節ニ爲内務官員巡廻爲致厚地方に申合確乎盡力致候様云々御尤之御事ニ奉存候乍去最早今日之運ニ相成候間其儀ニ及不申与愚考仕候

一壯兵召募之義御達ニ付元紀州兵御採用之ため陸奥議官御差登せ有之候處右ハ既ニ陸軍參謀部之方より着手相成居候處ニ而同藩人半途より關

係有之候得共却而不宜情實も有之候而陸奥ハ滯坂鳥尾歸坂之上打合候都合ニ御坐候右壯兵召募之事ハ一般御達ニハ相成居候得共凡而召募致候事ニ無之事故臨ニ候節之ため便利之地方より召集繰出しノ手順ニ而差向キ和歌山山口兩縣迄ニ着手相成居候尤其邊ハ陸軍ニ御委任相成居候如 尊諭此御達ニ而少々人氣ニも相關候事も有之候半乍去此事ハ於當地大ニ議論も有之結局壯兵召募ニ相決候次第ニ御坐候是ハ紙上ニ而ハ難申上入込たる事情も有之候

一土方久元も過日到着御傳言之趣逐一拜承仕候御用筋ハ自ら三條公方御回答可被爲在候

一行在所條公より御内書不容易御苦慮云々之趣多分前條十一日已前之時分之事与奉存候小官内書を差上不申義甚恐縮之至ニ御坐候乍去決而疎外罷在候事ニハ無御坐候前條通鳥尾實地に臨ミ候ニ付何事も其上大ニ目的ヲ決候内存も有之故其内之事を申上候も餘計之御配慮奉増之

義与相心得態与差扣居候其際之事ニおひて必懸る御心配被下候事も  
きよしもあらはと奉推察候得共凡る歸京之上親舖御咄可奉申上与閣筆  
仕候

一 島津珍彦兄弟内田等就上京云々之説も有之廟議確定之旨趣御貫有之候  
様御尤ニ奉存候右邊之談も承候得共上京後條公に申立候儀も有之哉未  
何たる事も承不申候假令何様之義建言候とも御氣遣之義ハ無御坐候若  
熊本模様ニ依るハ何とも難圖候得共今日之運ニ相成候得ハ聊差支無之  
候

一 熊本開城も近々与存候ニ付早速焼失之者救恤ニ着手可仕凡取調も相出  
來金高百五十萬之見込ニ有之尤佐賀山口等同日之論ニ無御坐候ニ付該  
縣ハ昨冬已來引續焼失ハ不及申慘毒を蒙り候事名状をへからさる次第  
ニ付十分仁政を被布 聖澤之厚キを感佩爲致民心を取候義肝要之義与  
愚考仕候猶大隈上坂之上篤ク示談之心得ニ御坐候鹿兒島縣之事難差置

ニ付戰地模様今日之都合ニ有ハ少々ハ兵を分チ候義も可相調候ニ付是  
非着手之積ニ有之候ニ付左様御安心可被下候  
右拜答旁如此御坐候餘件ハ條公に御答可被爲在与奉存候ニ付大要而  
已申上候謹白

四月十六日

大久保利通

岩倉右大臣殿

再伸

時下無御痛様吳々奉祈上候當地一同勉勵仕候ニ付御放慮可被成下候

【解説】冒頭ハ熊本戰況ノ進展ヲ詳報セシモノニテ少佐奥保鞏  
ノ率ユル一隊ハ八日賊ノ圍ヲ突破シテ宇土ノ官軍ト連絡シタ  
ルヲ以テ熊本城ノ圍解クルモ近キニアルヘキヲ報シタルナリ  
二項ハ内務省官吏巡回諭旨ノコトモ今日ニ至リテハ最早其ノ  
要ナカルヘキコト三項ハ和歌山縣ヨリ壯兵召募ノコトハ既ニ

陸軍ニ於テ着手セシコトナレハ同縣出身ノ陸奥宗光ニ關係セシムルヲ不可トシタルナリ五項行在所云々ハ當時行在所ハ京都ニ在リシニ閣員トシテ重要ノ地位ニ在リシ利通ト伊藤ハ大坂ノ旅館ニ在リ旁政務ノ統一上不便尠カラサルカ故ニ三條公ハ利通等ノ在京ヲ希望サレタルモノニテ鳥尾ノ戰地視察歸京後決セラルヘキ旨ヲ述ヘタルナリ六項鳥津珍彦兄弟云々ハ久光公カ勅使ノ答禮ヲ兼ネ其子珍彦忠欽等ニ家令内田政風ヲ附シテ上京セシメ政府私學校黨兩者ノ調停及ヒ戰爭中止ニ關スル建白書ヲ政府ニ提出セシメタルヲ云フ珍彦等ハ十日京都ニ着シ十六日參内拜謁ヲ賜ヒ尋イテ三條公ニ建白書ヲ呈セリ然レモ利通ハ今日ニ至リテハ今更考慮詮議ノ餘地ナカルヘク斷然却下セラルヘキヲ述ヘタルナリ

【参考】其一 岩倉公より大久保への書翰 明治十年四月十一日

四月十二日郵便船

近頃兎角拘攣強ク執筆不任意御無音打過候誠ニ西陲賊勢モ倔強意外ニ猖獗不容易御苦慮ト千萬令遙察候併シ乍形勢之上ニ於テハ素ヨリ全勝不容疑事ニ候得共最初之廟謨違算ニ涉リシ者モ不少ル哉ニ付一層御配慮ト存候得共御平定之義ニ必ラス屈指之中ニ在ルヘシ然リ而シテ今日ノ姿ニテ尙一周間モ經過候ハ、必ラス熊本城保チカタカルヘシ右ニ不得已義ニ付籠城將士彈藥器械ヲ處分シ必死突出テ一方ニ官軍ニ合スル外勿ルヘシ素ヨリ遺憾之事ニハ候得共今日ニ到リ熊城ヲシテ一時賊ニ有タラシムルモ敢テ不足畏然レモ世上人心ニ關係スル者甚大トス右ニ付各縣地方官ハ慥ナル官員派出全局大勢ヲ說諭一朝勝負傳聞ニ動搖ナク益確固不拔盡力之儀夫々心得書ヲ爲持廻縣被命候ハ、萬一ノ節兼テ覺悟有之可然ト存候左ナク候節ニ遠隔地方官ニハ案外ナル疑惑生候も難計想像ニ付關以東縣々へハ前文取計可然



哉參議中内談モ有之候得共何分御地ヨリ夫々内務卿職掌ヲ以テ追々御達ノ次第モ可有之ニ付演舌齟齬致候テモ不都合ニ付心付之處爲御参考ニ申入候事ニ御坐候

一萬一ニ變動傳播候得夫人心恟々各縣下何等之變ヲ醸候モ難計ニ付各縣下兼テ充分ノ取締リ出來候様御内達有之度候事

一各縣下今一層巡查ヲ御召募彌嚴戒ヲ加ヘ黨與ヲ結ヒ集會抔致候ハ、忽チ着手事小ナル内處分方御含メ可然歟

一有體申入候得ハ是迄此一周間ニテ賊必ス平定今十日間ニシテ必ス功ヲ奏スヘシト廟議ノ在ル處同様自然人々承知候處既ニ五旬ニ至

リ尙互角戰鬪ノ模様ニテ疑惑モ不少之處一タヒ壯兵招募ノ令發シタルヨリ實地戰狀ヲ想像幾層カ過慮之點ニ至リシ折柄ニ付萬々一

之節ノ爲メ地方官ヘハ厚ク御含メ置ノ方可然歟

一島津珍彥兄弟内田等出京ニ付テハ最早云々想像說多々アリ候ニ付

廟議確乎不拔益御勇奮之處御内示置有之候事當今ニ肝要ト存候

一壯兵召募之義御發令ニ付元紀州兵御採用可然又器械針打銃彈藥共充分之備アリ右ニ付陸奥段々申立有之大隈モ今日之際可然義速ニ陸奥京坂之間ニ被差遣可然トノ事ニテ決定申付候後右紀州兵召募御見込之電信到來候得共既ニ申付候後且當人舊藩情彼是入込候次第モ有之漫ニ被仰付候共行違ヒ出來ノ趣ニ候間旁以テ同人其儘差出シ候前後不都合之段御斷申入候

一總督宮始メ山縣河村其外夫々

勅使ヲ以テ御慰問并ニ恩賜有之候趣未タ御達ハ無之候得共今朝新聞紙ニテ致承知候然ル處海軍省伊藤少將等其姓名不相見如何ノ御事哉全ク新聞紙之誤傳ト存候得共ケ様ノ事ハ此際一大事ノ義ニ付幸不幸無之様只管致企望候

一土方久元九日郵便船ニテ差立萬端之儀申含メ各位ヘ御相談申候事

ニ御坐候

一行在所條公始メヨリ近頃ノ内書ニ至テハ不容易ル御苦慮ノ模様想像ニ不及ル次第又貴卿ヨリハ其後何等ノ御報知モ無之彼是如何ト懸念候ニ付全局ノ御見認メ中外ノ事情何卒御内書有之度別テ致懇願候

一極密乍ラ政府行在所一ツニ被合候モ難計趣キ承知小生等ニ取リテハ重疊此事ニ存候得共此節ニ至リ候テハ人心恟々東京中モ足下何事ヲ發候モ難計探偵モ有之候ニ付合一ニ義ハ厚ク御注意可有之事ト存候右ハ大藏省ナリ陸海軍省ナリ皆根本ノ地殊ニ外國交際モ有之素ヨリ中央根本ノ地厚ク御注意無之テハ不相叶事ト存候右ニ條々及内啓度如此ニ候乍例愚息代筆御斷申入候早々以上

四月十一日

具視

大久保參議殿

【參考】其二島津久光忠義より三條公に上れる書明治十年三月 (岩倉公實記)

先キニ勅使議官柳原前光ヲ以テ詔命之趣キ謹而拜承仕則上京誠意上陳仕度奉存候得共方今當縣下人心紛紜筆上ノ敢テ及フヘキニアラス故ニ止ヲ得ス勅使御禮トシテ島津珍彦島津忠欽外ニ副使兩人隨從セシメ愚意巨細申含闕下へ差登上陳爲仕候近頃恐入候得共無位ノ子弟副使迄モ閣下始メ執政ノ末席ニ被召出虚心ヲ以テ御聞取奏聞被下度奉仰願候誠惶謹言

鹿兒島縣在留

明治十年三月

從三位 島津忠義

從二位 島津久光

太政大臣三條實美殿

趣意書

臣等ニ此度誠意ヲ致セヨトノ勅諭ヲ賜リ愚魯之臣等感佩之至ニ堪へ

ス故ニ聊胸臆ニ包藏スルコト無ク之ヲ左ニ上陳ス

一當縣士族西鄉隆盛桐野利秋篠原國幹始メ黨與凡二萬人政府へ訊問  
之儀有之ト稱シ熊本縣ニ亂入朝憲ヲ蔑如ス故ニ征討之令ヲ被發之  
旨拜承仕舊情モ有之候得共實以恐縮之至ニ堪ヘス伏而御垂憐被下  
度乍去朝憲ヲ奉蔑如候程之者共今日ニ至リ臣等愚意敢而不用儀得  
ト御了解被下度仰處ニ候

一西鄉隆盛等此度政府へ訊問トシテ既ニ臣道ヲ失シタル其罪自ラ大  
ナリ且内務卿大久保利通大警視川路利良ヨリ内命ヲ受數人歸省等  
ニ事ヲヨセ離間等ノ策ヲ行フ云々事發覺之儀妄說ノ布達拜觀ス此  
義臣等ノ大ニ疑惑スル所ナリ其故如何トナレハ道程數百里ヲ隔テ  
則之ヲ妄說ト見認メラレス西鄉等ニ於テ必ス其罪ニ伏スヘカラス  
是至公至平ノ處分ニアラサルカ故ナリ鹿兒島人民ニ於テハ尤確證  
ヲ舉ケ之ヲ見聞シタルモノニテ或ハ問ヲ使ヒ同意ノ體ヲナシタル

アリ或ハ自訴シタルアリ故ニ傍人モ舉テ之ヲ證トシテ疑ハサル所  
一彈藥強奪ハ捕縛人ノ前ナルハ臣等モ保證スル所ナリ然レトモ西鄉  
ハ大隅國へ旅行中之ヲ聞テ大ニ憤怒シ粗暴之舉動ヲ譴責シタルハ  
縣下人民ノ能ク知ル所也其際ニ當リ捕縛人之事露顯シ之ヨリ意ヲ  
決シテ衆ト訊問ノ事

一西鄉等此以前征韓論破烈シ辭職シ政府ノ許可ヲ俟タス下縣セシハ  
既ニ臣禮ヲ失シ其過チ大ナリ然レトモ政府之ヲ責ムルコト能ハス  
昨今迄非職大將ノ任ニ位ス若當節ニ當テ更ニ之ヲ責ムルモ烏有ニ  
歸スヘシ亦在縣シテ恣ニ橫行ストモ國憲ニ觸レサルトキハ政府ノ  
威力トイヘトモ之ヲ抑壓スヘキノ權アルヘカラス亦彈藥ノ掠奪ハ  
壯士輩ノ粗暴ニ起リタルモノニシテ西鄉此一舉ニ因テ此度ノ舉動  
ニ推及ホス名義ナキニハ必ス別ニ鎮靜ノ道ヲ計ルヘカラス是等ハ  
得ト糾彈ノ上ニアラサレハ明瞭スヘカラス

一古今國家不軌ヲ計ル其種類區域アル舉テ數ヘカタシ然リトイヘトモ事ヲ舉ケサル未然ニ露顯スレハ其主領而已ヲ處分シ假令連判名簿確乎タルトモ時ノ執權大量アレハ連判牒ヲ燃キタルアリ之ヲ稱シテ美事トス毛ヲ吹キ疵ヲ求ムルヲ小人トス是ヲ執ルモノ、量ノ大小ニ因テ美惡ノ分ル處最注意スヘキ事ナルヘシ今ヤ外國我國ヲ覬覦シ古ヘノ皇國ニアラス能々思慮ヲ加ヘサレハ不測ノ變ヲ生ス鑒ミサルヘケンヤ然リトイヘトモ是レヲ以テ國法ヲ烏有トスルニアラス之ヲ處置スルニ政府ハ公明正大ノ處分ノ外更ニ道アル可カラス

一夫賢者在位能者在職無偏無黨文武ノ官人身ヲ國家ニ致シ衆ヲ誘導セハ外ハ各國隙ヲ伺フノ憂ナク内ハ以テ萬民命令ヲ遵奉シ一揆強盜ノ難アルヘカラス然ルニ此近年打續キ士族ニ至テハ肥前ニ江藤島ノ黨アリ肥後ニ敬神黨アリ長門ニ前原黨目今西郷黨アリ百姓一

揆ハ各縣舉ルニ違アラス外ハ各國ノ指笑ヲ受ケ内ハ國家之疲弊大ニシテ負債舉テ數ヘカタカラシ其根源ハ人民ノ堪ヘサル處アルカ故ナラン各位虚心ニシテ自反セハ明カナルヘシ此間閣下ノ布達ハ一往ノ糺彈ナク之ヲ妄説トス假令眞ニ妄説ト見認ラル、モ再應取調之上ニアラサレハ政府ノ命令ト雖人民必ス信認スルモノニアラス是則チ帝王一人之私スルモノニアラサルニ因テナリ故ニ彌國家ノ危キコト累卵ノ如シ仰願クハ至急休戰之命ヲ總督府ヘ下サレ此度ノ巨魁人員ヲ定メ平穩之處分ヲ以テ中原ヲ護送シ大久保川路モ隨テ之ヲ召シ更ニ至理至當聊偏頗之處分ナク各法官ヘ渡シ奏任以上其席ニ列坐シ非常之裁判ヲ開キ其結局ニ至テ律ヲ照ラシテ之ヲ罰セン其上若異議ヲ生セハ斷然ト罪ヲ鳴ラシ之ヲ征討セラレテ可ナリ乞フ速ニ實事施行アラン事ヲ

右ハ此度勅諭拜戴シ當今之時態ヲ顰眉憂慮スルノ餘リ忌諱ヲ憚ラス